

全力を集注せよ

人一事に全力を傾注し即ち三昧に成りて他を顧みざる時は自己が心中に發生すべき幾多の憂慮不平を絶滅して一種獨特の天地を開拓しうるに至り無限の快感を覺ゆ。之に反し心を用ゆる法を知らず徒らに自己の職業を賤しみやに思ふ如きは全力を傾注せられざる故なり。

習慣の力

無意識に活動し得らるゝ單純明快なる頭腦を作んどすれば根本的に正確に日常の習慣を作るべし。日常の習慣が人の頭腦に大なる關係を及ぼす。吾人日常の行爲無意識に行ひつゝあるものなし。

自己の意思を使用せずして自動的無意識的に巧妙有用の文章を記草し得るは心的習慣の作用に出たる結果なり。經驗を重ねずして熟練する能はず。

無意識的自働的に自己の才能を使用し得べき方法は實習の一事を除きて他に期待すべからず。

無意識本能に因て統一せられたる習慣力は其勢力強く靈的表示の最も強大なるものは此無意識的結果より生ずるものなり。是れ皆習慣によりて到達しうべきは實驗家の經驗する處なり。

能文の人は神來の筆と云ふなれども其實は習慣の力なり。意思の一部の使用は追想する方法に限るものなり。自己が往來なしたる所を參考的推理に依て事を斷ずるにあらのみ。此自働的行爲を巧妙に利用せんには自己の腦力を多く用ひず健全ならしめ自己の智能を開拓しうるに至らん。

病的意志即ち薄弱の人も意思の使行如何に依て困難の事も容易に完成し得るに至らん。すべて習慣の力よりして起るのみ。無意識にて自己の職責を盡しうるの理由は此原則を適用したる結果のみ。

一旦習慣の力によりて自己の腦力を多く使用せずして日常の行爲を十分に完成しう

るに至るべし。

明快なる頭脳を持て實務に應用有力の効果を見んと欲せば常に修養して秩序ある習慣を涵養し之に因て日常の業務を統治する所あらば手足と頭脳を勞する事なくして爲す所極めて多からん。

怠惰因循なる勿れ

薄弱の徒は頭脳明快なるも事に對して怠惰遲滯の結果日々昏亂に陥り陰鬱と化し終には自己の力にて如何ともすべからざる程の域に至るは必然の結果なり。

怠惰因循の人は其の爲す所すべて不快斷儉安に流れて一見平易の事に對してすら一刀兩斷の所置を取ることを能はず。

自己の職能に精勵し大決心大勇氣を以て萬事を左右すべき強健勇敢の精神あらば一時昏亂因循なるも之を矯正しついに明快健全の頭脳となる。

我が頭脳は天性不健全不明晰なれば致し方なし。人力を以て矯正する能はずなどい

無能の言を發する勿れ。こは眞に意志薄弱精神怠惰の人たるべき特徴にして併せて自己の無氣力を表す。

怠惰偷安を事とする人はこれを唯一の苦痛逃遁法とすべきも何ぞ知らん自ら苦痛を倍して精神を不快に導きて何らの法なく此苦痛は他の形を變じて煩悶と化し憂鬱と變ず。蓋し時間を利用して自己の天分を盡さず己れの責任を無視するものは此處罰を被るべきは當然なり。

自己の腦を明快に導く一大活法は自己の決心にあり。自己の努力にあり。天然の不健全を悲むは是れ愚痴のみ。

人格の因と縁

生を享る者秘密に伏在する使命を自ら知らず、こは未知界に屬し自ら那邊に到着するかを知らず。天は人に成功すべき資質を賦與して必ずしも成功せしめず。成否は第二の造物自己にあり。

自己にいかにかに潜勢力を伏在するかを透視する能はされども將來果して何れに成りうるやは此潜勢の分量と資縁の如何による。

原質には無限の精力ありて縁力の如何によりて發達す。

原因の潜勢力は其縁力の如何によりて發達す。マンモスと稱する暗黒の谿に棲息する生物は物像を視るの必要存せず。故に其視覺は鈍し。之に反して嗅と觸及び聽覺は非常に發達せり。自然はあらゆる生物を因縁的に發達せしむ。

森林の鸚鵡は縁色、色は縁に隨て變化す。原因は無定性にして縁に隨つて變ず。因力無限なり。人何ぞ發憤激勵し大成功をなさざらん。

天の我に賦與せる材幹鈍なりとて自ら安するは其因無限と知らざるなり。

野のバラ花瓣少く不美なるも豊沃地へ移して培養に力むる時紅黄色の花輪美となる。家庭教育の研究者の説に英國及大陸の癲狂院に收容せられたる大部分は小兒にして

何も幼時より意志の訓練を缺たる者に係り家庭の教養宜しきを得たる者は此疾に罹る者稀なりと。

人の性癖及び習慣は猶希臘語及羅旬語を教授する如く訓練し得べきなり。ジョシ
ン曰く、人は意志の如何によりて快活にも亦た陰鬱にも生活しうべし、忍耐と満足
の觀念は人を快活の方面に導き不平不満の感情は人をして陰鬱ならしむ、小難を大
難と過大視し大恩を過小視する傾向あり、又曰く如何なる事件に際しても常に光明
の方面を観察するは一年數萬金を得るに勝れりと。

煩悶する勿れ

目的なく理由なく空想に驅られて悲觀を事とする煩悶は單純一個の悲むべき事項あ
りて然かるにあらず、言に盡されざる各種の不安恐怖の事相寄り且つ繋續する爲に發
生する心の病的作用なり、寂寞無聊の念坐に起り快々として孤獨の苦痛に耐へず、暗
影の日光を覆ふが如く幸福が殺され悲觀呻吟煩悶する如きは寸益なく只害あり。眼前
に至難事業到來せば是れ煩悶すべきにあらず、努力して自家の力量發揮の機會なりと
覺悟せよ。奮勵一番意氣颯爽を感ず。

光明を逆境の中に求めよ。現代の幸運兒も其半面には陰暗苦痛の閱歷を有す。自ら過去の境遇を回顧せよ。自ら自分の事にも肝膽を寒うする危険迫害悲痛に耐へざる事件も已に經過し來りしにあらずや、之に屈することなく勇進の結果今日に到れり。過去已に然り現在將來當に此の如くに奮進すべし、蓋し困難を以て磨練し始めて極樂に達せん、人はいかなる境遇にも濫りに精力を徒消せず總ての迫害と誘惑とに打ち勝つべきのみ。

義務と愛

義務は人の品性を形成するの神髓即ち正義を實行するの意なり、人生の義務は負債の如し、課程を果す如く能く義務を盡すは道德上の要求を遂ぐる所以なり。

父とし子とし君とし臣として國家の一員としての義務あり。

義務の眞意は神聖の見地より盡すこと即ち義務と愛と加算するものなり。米國一婦人船の沈没せんとするを聞き躍然身を挺して救助せり、是れ遭難者を憐み暖なる同

情の念勃然として身の安危を顧みず、是れ義務の眞意なり、義務は天の賦與せる深切と愛によりて遂げ易からしむ。

看護婦は其義務として忠實に病兒の床側に侍するをうべし、然るに其母病兒の生死如何を慮りてねるに堪へざるが如し、こは決して義務にあらずして愛なり。

愛を人生の一大義務とす、若し負擔を以て義務とせば苦痛を感ず、愛を以てせば百花薫せる春の野道に逍遙する如し。

敬虔誠實の生涯を欲せば温厚篤實悠々として迫らず自然の性情より流露する愛の爲めに働かん事を期すべし。第一は眞理を愛するにあり、誠實正直の光明常に心頭に輝き虚偽を嫌ひ法性の發達を念とせよ。

人道を重んじ博愛を施さんとするは自我の物慾に打ち勝つ證なり。嫉妬怠惰奸邪不仁誤解は人世の幸福を殺ぐ。惡徳は愛なきより生ず。

愛は人生を平安愉快ならしむ、博愛は高尚純潔なる、意思を表示す。人格高く同情豊かなるもの、博愛は生活途上の險坂を平にす。愛は四顧荒涼を極むる生存競争の

野に紅の薔薇燃えて軟風の舒ろに清香を送るに似たり。

簡易主義と元氣の獲得

理想高く人格高く國政大任の人其態度從容として迫らざるは其責任の重大を思ふ故に心頭に邪念を容るゝ餘地なし。

偉人發明者の生活は極めて質朴單純遜讓なり。簡易主義は礦鐵の針の北を指す如く唯だ其理想に向て勇進す。

生活を單純にし從來の習慣嗜好を犠牲にせよ。其食物其言語を眞實高潔にし簡明にせよ。徳性を養ひ不徳の性慾を控除せよ。

偉大なる功果の秘密は唯だ簡易主義を實行するにあり。

克己心の厚き人にして簡易主義を行ふ。

簡易主義は心靈上に向上を欲し物質上に無慾なり。世の滔々たるもの心靈に盲目にして徒に肉に對する物欲を追求するに汲々たり。

其心事を純潔ならしめ其性格を堅固ならしめ奮然向上猛進せよ。空しく過去を悔ひ
悲み不安なる勿れ。前途の光明日々新しき生命に向て旭日の天に昇る如くせよ。敢て
以て過去の悔恨よりも過去の實歴に顧みて多大の智識を收め將來の行路を開く希望の
光明より明日は今日より賢明なるを得べし。古來志を抱く士幾多の失敗に遇ひ一
難を経る毎に勇氣百倍し最後の勝利を得たり。

失敗を活用す。第一の機會に失敗し第二の機會は自ら戒飭し、終りには驚くべき經
験力に訴へて曾て失ひたる處を補ふ。

過去の榮華を説くなかれ。目的は將來にあり。賢不肖の岐るゝ所以は現在の實力を
發揮して功を他年に奏せんとする是れ健全なる男子なり。

人の成功の秘決は充分に其精力を發揮し勇往邁進するにあり、實行を力とす。

過去の經驗を葬らず新智識新材料を活用し自ら聞く處を以て智識に化するを義務と
なす。

果敢活潑一日一日を有益にす。

外観して見るべし。浮雲の榮華を誇る無智の心事を問へば寧ろ憐むべきもの多し
人の心に山中の賊よりも大なる弱點あり。

人は生を天に享く天壽を全ふするの間は營々たり。智者は限りある生命をいかにして最善に到る目的の爲めに利用せんかを研究す。人生天賦なる義務あり。精力の及ぶかぎり遂行する覺悟を要す。人この問題を解決せんとするに際して危惧し恐怖し逡巡することあらば天命を解せず。

不斷光の希望

若人目的に向つて進行するに不斷の光明は向ふ處に發せん。希望なく決心なき人は前途闇黒にして恐怖と回顧とは常に伴ふべし。

不斷の規律的生活の途中に種々の困苦艱難は棘荆の如く嶮阻はあらん。然れども前途の光は斷へず照され心に極樂はいつも進む處に感じらる。不斷に希望の光を放ちて却て艱難は心脚を發達せしむるを悦ばん。

意志に不斷の希望ありて當に規律的に向つて進む。若し此の道を誤りて見失ふことあらばいかに憂鬱と煩悶は必らず纏ひ來らん。人生は實に無意味にしてつまらなく快活はなく勇氣も失ひ三途の街に矛むの心地すべし。進むに道なく退くに處なく三途の闇黒をたどる。謂ふ勿れ、如何なる業務か之れ至善の都に達する行なると。其業に於ては、高等官も車夫も其業の如何を問はず、其の精神に於て、自己の天職を神聖とし

満足まんぞくの念ねんに住ぢゆうして、不斷ふだん快活くわい濶歩くわかつぽの意志いしたらば其精神そのせいしんに於おいて正まさに至善しぜんに向むかふて進行しんかうせらるなり。

不斷光中の早起

不斷ふだん光くわうの規律きりつを立たつるには先まづ朝起あさおきの習慣しよくわんをつくべし。朝あさに新鮮しんせんの空氣くうきを吸すひ、而しかして如來にょらいに向むかつて今日こんにちの聖旨みせめを承うけたまはりて光榮みさかえを顯あらはすべきつとめを果はたすように神力じんりきを仰あやぎ、而しかして聖命みせめのつとめ潔きよく果はたさん事ことを誓ちかひ、恩惠みめぐみの力ちからは不斷ふだんに自己じこの職務しよくむを爲なすの原動力げんどうりよくと加くははり、感謝かんしゃの念ねんより運ぶ脚あしはいかに輕かるく、恩寵おんちようの念力ねんりきより働はたらく手ては如何いかに快こころよきよ。

不斷ふだん光くわうは秩序ちつぎよを照てらす。事務じむは着々ちやくちやくと進すすみ事業じげふは愉快ゆくわいに開ひらけん。

早朝さうてうミオヤに感謝かんしゃする時とき、一層神そうじんの爽快さふくわいを感じかんじ、心地明快こころめい快くわい、進む處ところ明あきらかに見みへ、精せい密みつに働はたらいて事々じじ紛亂ふんらんするなし。不斷ふだん光くわうなき者は身心しんじん薄弱はくじやく活氣くわつきなく靈力れいりよくなし。

睡眠を覺す

不斷光は人をして覺醒せしめ、人の良心を刺戟して睡眠の夢を破す。人の身體一切の生理的機能は常に不斷に活動して其職務を力行す。其全體を總括する身體の五官何ぞそれ不斷に秩序的の活動せずして可ならんや。

夜間の執務

人間の生理的生死日夜寤寐、日夜は世の自然生理の原則なれば人は自然に則らざる可からず。能く自然は法身の然らしむる處、靜動起臥は、起きて動其度に達すればまた眠る。其の睡眠は人の生理的活動機能を回復せしむる自然の作用なれば人の生理機能即ち活動元氣を養ふは即ち安眠なる故に夜間に起きまた夜間の執務はさけて一定の時間に睡眠に就くべし。早起せんと欲せば必らず随つて晩には早く寐ざる可からず。晩起の人はつひに夜間の業務の止むを得ざるに至る。

不斷に秩序正しく活動する人は光明の時間を活用し、法身自然の生理に基き夜間に

早く寝に付きて不斷の精力を養ふには、身心共に休養し明日の元氣を養ふ可し。若し是に反して日中業務を怠り夜間に執務せば自然の定則に反し不斷快活の精神は疲勞し萎縮す。夜間執務せば自然の賜物なる日光を應用する能はずして人を勞せしめたる灯火料の爲めにも自己の精力を費さざるの止むを得ざるに至らん。

休養

不斷光の秩序的生活に必要な休養は身心を健全にし精力を増進し精神を快活にし業務に力を渴くすることをうべし。

安眠休養は不斷光、怠墮にあらすして却つてミオヤの此生に賦與せられたる命令を遵奉するものと謂ふべし。

視よ、すべてのミオヤに背ける闇黒の生活を好むの徒に於ては夜分人の寝たるすきを窺ひて他人の物を竊め、またミオヤの休養に與へられたる時間を誤用して夜間人目を忍びて賭博を爲すにあらずや。正しき人よ、汝らはかの光明を嫌ふ惡しき徒の如く

に、何ぞ動くべきに動き休むべきに休まざる。

神は明日活動すべき元氣を養はせる爲めに今夜休養を命じたるにあらずや。

光中の人の睡眠を見よ

不斷の光に秩序的に生活する人は明日光的活動の爲に回復をはかるための睡眠にて、其身に適せる不斷の活動あれば、又眠に付くや自然に秩序あるが如く熟睡し、快く眠り快く醒め其夢にだも美天國に逍遙すべし。抑是不斷光的の意念の活動が規律よく秩序正しき習慣の然らしむる處なり。まことに彼は終日神のまに／＼淨く其の命を果して快よく眠りて天國を夢む。彼が不斷意志には神のみたまに充されり。彼は睡眠より覺むるや光明は、曉の曙光の如く彼が腦裡に輝けり。

之に反して不斷光なき人を視よ。彼は一日光の中に有れども、不斷の靈は彼が意志に閉ぢられ、日中尙因循として無爲、此の日中も彼の爲には夜なり。いかにとなれば天職を果たす業務を能くせず規律なく秩序なきは誠に闇夜なり。

早起と祈

早起はやくおききて神かみに仕つかふる家いえにては身心しんじん共に清淨しやうじやうならしむるために冷水れいすゐを以もつて沐もくす。是迷これめい信しんと誘さしる勿なれ、冷水浴れいすゐよくは人の身心しんじんを刺激しげきし清淨しやうじやうなる志氣しきを昂奮こうふんせしめ身心しんじん共に發達はつたつすまた朗々ろうくたる讚美さんび歌をもつて神かみの光ひかりを稱たえ、清きよき祈禱いのりを捧さげて聖旨みせめの現あらはれを祈いのるは如何いかに人ひとの精神せいしんを至善しぜんに向むかはしむるよ。朗々ろうくたる讚美さんびの聲こゑは其それに無明むみやうの眠ねより醒さめん清きよき祈いのりの音おとは如何いかに吾等われらに力ちからを與あたふるものぞ。

中心ちうしん常に歡喜くわんぎと希望きぼうの念ねんにて輝かがやくが故ゆゑにいかなる場合はあひにも失望しつぱう落膽らくたんせず。たとへ失しつ望ぼうもまた歡喜くわんぎの價値かちを知らしむ。歡喜くわんぎ自己じこの煩悶はんもんを慰安ゐあんし心的しんてき光明くわうみやうの斷たゆるなし。此光心機このひかりしんき一轉てんの工夫くふうを以もつて自己じこを明確めいかくにして毫かうも攪亂かくらんせしめず。

他人たにんに對たいして惡感あくかんを懷いだかしめず、身みを持ぢすること極めて自重じぢやう、輕卒粗放けいそつそほうなく、困難こんなんも貫つらぬき完成くわんせいすべき力ちからを備そなへ、豪患ゆうくわんに對抗たいかうすべき勇猛ゆうまうの念ねんに富とむ。

歡　喜

他人に對し懇懃丁寧なれ

自己の接觸する人々より信用を得んと願ふに、更に其信用に背かざらんことにつくす。否の一語如何に必要なるか。斷然明言せよ。

他人を喜ばす。人は想像より情的の事務に屬せり。熱誠と禮儀とをもて待遇せらることを得る眞卒にしてすすぐしき舉動は、少しく心を用ひば舉動作法を快活にして他人の腦裡に快感の印象を與ふ。一生の事業成功は堅實なる才徳によるよりは快活なる舉動作法によること遙に多し。古來往々心情の善良親切なれども舉動の粗野無骨の爲め禍を作ることあり。

富まざるも幸福

古來最大幸福なる人々は多くは貧しかりき。ウオヅウオルスと其の妹とは一週三十

シリングの經費にて多年生活す。此の時期こそ此詩人の生涯中の幸福なりき。たとひ富有らざるも共同の生活心と愛情だにあらば家庭にて樂しき笑顔を造れ。是汝の全世界にあらすや。ランブル云はずや、「富豪にして健康ならんことを望まば貧民の如くに生活するを要す」と。家庭の光、自然の美は永久の喜。然るに天に輝ける日光も觀る者の胸中に日光なくんば何かあらん。愛、崇敬の情は家庭に養はる。家族は文明の基礎艱難辛苦ならば其の報酬もまた益貴し。

他人に満足を與へよ

何人に對しても輝ける微笑と親切なる言語と愉快なる待遇を以てせよ。親愛なる人に對しては動作に於て愛情を示せ。

フィールド卿曰く「如何に人を愛し人を憎むべきかの一事なり。彼等は自己の親愛せる人の過失に對しては寛容に過ぎ甚しきは偏頗的庇護を交へて却つて其人を賊ふなり。」

談話の歡喜

若し家族の同情一致を望まば單に愛情と好意を有するのみにては足らず。自己の思想を吐露し他の思想を引出す所以の頓才と能力とを要す。他が若し汝を喜ばしめば汝彼を樂しましめよ。

人を譴責する場合

少くとも親切に語り聞かせよ、粗暴なる言語を發する勿れ。人を稱讚するには衆人稠坐の席にするとも人を譴責するにはなかれ。密室に於てせよ。密に語らば彼喜んで我が言を聽くべし。

譴責には己が態度を嚴肅にして遺憾の情の寵らざるべからず。出來得べくば憤怒不滿の情を表に顯すべからず。汝若し怒らば口を開くに先だちて少くとも心を鎮めて考へよ。アーノルドは最も人の高尚なる修養の特徴として無限の寛容事情の酌量人の行爲に對して嚴格なる判定を下すと同時に其の人自身に對しては慈悲深き判定を下す

と。然り何人に對しても酌量せよ。汝若し事情を審にするあらば人を責めずして却つて之を憫むに至るべし。

愉快の源泉は努力

煩悶の一日は勞作の一週よりも身心を疲勞せしむ。煩悶は吾人の身體の組織を攪亂し、勞作は其の健康と秩序とを齎す。筋肉の行使は肉體の健康を來し、腦髓の行使は心の平和を來す。シャンテルト曰く、人は心の勞作によりて情の休息を保持し得らるべし。

苟くもなす所は徐々として之をなせ。心を仕事の中に折り入れよ。全力を擧げて研磨すべし。能力を使用せよ。然らざれば之を失ふに至らん。ヘチキヤは、苟も着手せる事業に向つては全心全力を傾注して從事しよりて成功すと。

常に欣欣然たれ

自己の胸襟を濶大にし自己の精神を愉快に導く歡喜の生活は人間の最幸なり。常に

欣欣然たれ。些少の事にても愉快を見出す程の快活なる人あり。彼は大不幸の中に慰安ある光明を見出し、いかなる失望の状態にも一種の新天地を開拓す。彼等が眼には一として愉快ならざるものなし。彼等は歡喜光の性情を備ふ故なり。

歡喜光に充さるゝ者眼に燦然たる光を放つ。愉快の光輝、快活の光輝、歡喜の光輝、同情の光輝、是歡喜光の權化なり。いかに重大の負擔にも義務にも不平不満を示さず。欣欣然とこの重擔を荷ひ、自己の精力を無益に消費するが如き愚を演ぜず男らしく之に努む。

現在の不幸に於ても將來の善事を認め。病中にも健康たり。困苦中にも矯正と規律を見出し、悲憂の中にも勇氣を鼓舞し、智能を發し、最良なる實際的活誠を求め其の心事を偉大にす。シエレミー、テラーは掠奪に遇ひて家を失ひ、家族を屋外に彷徨し財産を分散するの止むなきに至れり。されど毫も心を亂さず、泰然として曰く、予は公吏と暴漢の手に落ちたり。然も今果していかなる失望をなすべきか、予には尙日

月照し、妻女と友人の予に同情を寄するあり、又他の人も予を救済せんとして盡瘁しつゝあるに於てをやと。

眼中の光輝。いかなる悲憂のあるも常に光彩美妙歡喜の喚發せる光輝の欠ぐなくば冷さにも溫め苦みにも慰め悲みにも活氣を與ふ。

人の心情を訓練し快活に至らしめ、歡喜によつて事物の美點のみを捉ふ。此の決心は人世の快のみに非ず、美善なる品性の一大保護なり。

最良の醫藥

歡喜光に精神を活動せしむるは慈愛の友、忍耐の看護婦。

道德的心理的健胃劑として尊むべきは歡喜光なり。ホール博士は患者に對して最良の醫藥は醫家の與ふる藥品に非ずして御身の心底に横はれる快活心樂天の思想にありと。またソロモン曰く快活心は藥品の如き効ありと。

歡喜光により業務より妙味を發見す

偉人が歡喜光にて常に満足を知り不平の念を起さず愉快の中に圍まれて失望落膽の情に打ち勝ちたる所以は、自己の従事せる業務より快なる妙味を發見し之を楽しみ飽くまで熱誠奮闘の念を以て事に當りたればなり。

フキルデルグは負債身體の薄弱幾多の事情の爲に不幸蹉躓失敗の中に陥りたれども且つ其の美なる快活心の一點だにも損したることなし。

習慣的樂觀。パーマーストン卿の行動を二十年を通じて間斷なく注視したる人が卿の人格を樂天思想に叙して曰く、予はまだ一回だも彼の怒れる顔面を見たるなし。いかなる謬虚構に對しても濶大沈着歡喜の色を逸したるなしと。

樂天の要件。快活、歡喜、寛大、仁恕、健全の美質を喪失せしめず、憤怒、痛激の氣象と氷炭相入れず、愛情、希望、忍耐を根底とす。愛情は愛情を起し親切を産む。愛情は希望の光を放つ、他人に對して寛大眞實も仁恵も慈悲も之より發す。

草の中にも光輝を認め花卉の間にも日光あるを悟り得るものは此の美點を生ず。

ペンザム曰く他人に對して貢獻する功績の分量に應じて自己の快樂と樂天の思想は常に豊富となりゆくものなり。そは親切を呼び起し一の幸福は他の幸福を湧起せしむる力あればなり。

親切の満足

他人に親切をして、彼が酬はざるのみに非ず反對の意志を以て迎ふるも自己の良心の満足を買ふに足るべく。自ら得々の色あり。無代價をもて親切の種子を蒔くが如き痛快は善行中の最良と數へらる。

歡喜光の忌みもの。他人に同情を寄せず、自愛のみを計り他人と社會のことに關しては寸毫だも盡辭することなきものは誰しも活動の根を損傷し快の生活を得難し。假りに成功するも何等の尊むべき畏敬すべきなし。

人生の活氣を缺き精神を消沈に至らしむるは自己の行爲を不自然に趣むかしむ。専横放恣偏見を固執する忌はしき伴侶のみ。青年にして此の弊に陥らば方に自家のみを

中心として自家の心事のみを回想し自己の利益を欲し自己の放逸を満足す。これ氣儘の弊に外ならず。

萬難を安忍す

確乎たる信念あり、強健なる意思あり、天を怨まず、人を尤めず、いかなる苦にも安心す。徒らに精力を消耗するの愚をさとる闇黒の中にも希望の光に無限慰安を感じ奮然起ちて快復するの意氣壯なればなり。

ナポレオン一世はいかなる事情のもとにありても安眠することを得たり。いか様にも自ら其の思想を支配する能力を具へたればなり。見よ匹夫より起きて一度コルシカに通れモスコーに敗れウォールターに躓き一日も其の席暖ならず。然るに彼は平然たり。何人も平生此の用意ありて繁劇の間に閑を求むるの工夫ある者は何人にも其の體力精力を維持して大事を遂ぐ。

怒氣の害

怒氣は被害者も發者も多大の害を受く。怒氣をなしたる瞬間は其の精神最も不健全なる状態なり。智力も良心も全く掩はれ、堪ふべからざる不快の念催し肉體の不健康を招くに至る。怒りは一時の狂人なり」と。

怒氣の主なる原因、肉體の病的状態に在り。精神上より見れば、確乎たる信念透明なる理性健全なる常識ありて、偶々一事の其の意に満たざるに際し他の眞意の那邊に存するかを看破する能はずして一圖に自己に惡意ありと解釋し、其の自負心の不健全に興奮する時、換言すれば腦の作用意思の羈絆を脱して盲動する場合なり。

無智も怒氣の原因

理性に基かず、感情を以て判斷す。事の是非を見るに及ばず。先づ他を非難し嘲罵を以てす。斯く不健全なる精神の作用によりて出でたる言は恰も天を仰いで唾するが如く自己を汚す。

激すれば激する程自己に對する損害多からむ。他を嘲罵するは却つて他の嘲罵を蒙

むる所以。其の結果は自己に歸す。怒氣は無智にして自負の念に驅らるればなり。精神の修養足らざればなり。其心を平靜ならんと欲せば須く怒氣を制せよ。怒を制せんには自負の念を去り他の眞意何に在るかを明察せよ。

ゲーテ曰く忿怒は愚者の心に宿れる有毒の瓦斯なりと。徒に怒氣を起し易き者は其の心常に不快にして健全なる活動の意氣なし。従ひて進歩なく成功なし。其の生を陰暗裡に送るの外なし。此の種の人に接すれば何人も不快の念に襲はるべし。其の家族は氷塊を抱きて生活するの思ひあるべし。寸時も快樂を受るなく自身も不幸の生涯なり。

此の徒樂むべきに苦しむ喜ぶべきに悲しみ信用すべきを疑ひ年を経るに隨ひて其の悪性は漸く増進し益々他の忌避する處となり、子女として斯る父を有する者は機會の到來するや一日も早く其家庭を遁れんことを思ふ。

不斷の力

善良品位ある人格は自己の盡辭なくしては形成せず。此に達せんには不斷警戒規律克己を要す。幾多の失敗と困難と誘惑に奮戦して精神強固感情端正ならば最後の勝利を得て現在の人格よりは一層高き標準に達せん。

自己の理想に猛進し世俗名譽の爲に動搖せられざる實價を要す。實價のみ永遠の力の眞の活力。毀譽褒貶に頓着せず、靜かに誠實と勇氣とを以て進め。自己創造と保持努力こそ其の基礎たり。自發的活力なくば何の功をか爲さん奔端激流は有力の業をなし機械を動かす力あり。沈滯不動の水は何の益ぞ。不撓不屈の意志は高尚なる希望に向て大膽勇敢に人格を發揮し他の模範たり。一言一行生氣滿々活潑潑地能く人を動す高潔なる精神正義秩序義務の觀念は強し。

不斷練習

不斷の靈光は人格を高潔にし此の不斷光は人を善に神に近づかしむ。斯く神の不斷光に活動せる人は尊敬すべし。目的は正善に、思想は純良。希望は高尚、彼は日口の出來事を経験として此の経験に惡を除きて善に進ましむ。本より修練を目的とすれば失敗も成功も他人の稱譽も毀損にも動せず、相貌異なし。彼は眞理を愛す、世に戀すべきもの眞理ほどはあらず眞理は愛すべき女神たり彼は彼の女神に接近せんがために戀々として忘れず、彼は身體は老いるとも精神は益々壯なり。

火の力觸るるものをして焼き盡すが如く光明の靈力一切人類の惡性煩惱を焼く力猛し。

意志は性格の靈力なり。自己の性格を支持し精力を強度に發達せしむるには大に修練を要す。宗教道德的靈力は修養によつて益々發達す。此に就て如來は無限の力を與へ給ふ。いかなる事情の下にも迅速に決斷して一度決したる事は頑として動かざるの意力を養ふべし。

自ら決斷して他人の助成を待たず、いかなる事にあはんとも自己の精力と勇氣とに依つて住すべき力を養ふべし。

悪俗に抵抗する力

人は其の精神に自重獨尊の威力なきものは高等なる人格を維持する能はず。世には阿諛媚諂にして自ら奴隸を甘んじて得とすること多し。名利の奴隸たるものの免れざる處。阿諛は唯富貴權門に對するのみに限らず、其の部下臣下に向つても其れらの甘心を買はんが爲に、ことさらに意を用ひて阿るもの多し。政治家事業家社會の上流に立つて尊敬を受けるものにしても、自己の位置を購はんが爲めに自ら餓鬼道性となり自から名利の奴隸となるもの比々皆然り、死せる魚力なくして浮べる如くに。

精力集中

經に心を一處に制すれば事として辨せざるなしと。精力即ち意志の力を用ひるに

志こゝろざししたる事業じぎふに集中しちゆうちゆうし、此この事ことにして成ならずんば止やめずと、斷だん乎こたる意志いし金剛こんがうの如ごとくに、密着みつちやくの力ちから強つよければ、いかなることも難かたからざるべし。

熱心ねつしんと勇氣ゆうきとは此この精力せいりよくを集中しちゆうちゆうして其その志こゝろざしす所ところに向むかつて猛進まうしんす。此この意志いしの力ちからは荒蕪くわうぶせる地ちを開拓かいたくして良田りやうでんとなす。アーノルド曰いはく、一物ぶつの上うへに自己じこの能力のうりよくを集中しちゆうちゆうし之これを完成くわんせいせんと欲ほつせば、時々刻々じまこくく怠をらす實行じつかうするに、久ひさしきに及およばばつひに習慣しふくわんが性せいをなして事業じぎふはいかに煩瑣はんさなるにも困難こんなんなるも、所有いふる障礙しやうげにも誘惑いさくにも尅かちて、自己じこの能力のうりよくを發揮はつきすることを得うべし。

人ひとの本能ほんのうの性せいに十界じゅうかいの性能せいよう具備きうびす。中なかに就ついて何どの方面はうめんに向むかつて自己じこの能力のうりよくを發揮はつきせんとするも、最高等さいかうとうなる道德だうとく的能力のうりよくを完成くわんせいせんと欲ほつせば、其その目的もくてきに主義しゆぎに執着しちやくし一心しんを唯此ただこの目的もくてきに傾注けいしゆし、好むといなとに拘かはらず一も之これを實行じつかうし、其その能力のうりよくを養成せいせいすべし。たとひ初めには性せい好こうまざるも、之これに意向いかうが傾かたむく時は、漸やうく趣味しゆみを感じかんじ、つひには之これを好むにいたるべし。能力のうりよく發揮はつきの結果けつぐわは其その性欲せいよくをも轉てんするものなり。太施たいせ

太子精進の力龍王を感ぜしめて如意珠を得たる如し。是全く一切人類の精神を吸集して靈力の一大團體を作りて地上の天國を建設せしは、此太施太子の意志の力に因る。

精力を徒に消耗する勿れ

人の精力は十界何れをも發揮し、天國をも地獄をも、一の精力の使ひ方いかんに起因す。空しく徒らに惡結果を來すべき事業の爲めに精力を徒費するが如きは、實に一生の恨事なり。大發明家の其の目的に向て一に其の精力を集注し熱中したる結果は、其の一心の集る處に一縷の光明を發して、遂には完成して蒸氣力を以て機關を運轉し電信となりて人力を助くるに至る。精力利用の功大なり。若しワット及びフランクリン等が精力をして空しく彼を思ひ此を煩らひ煩悶に煩悶を生み徒らに精力を消耗せしめばいかに。人は天より善惡邪正迷悟自由に自ら運命を開拓すべき使命を齎らし來れり。

人は自己の潜伏せる靈性を開くべし。釋尊は一切の人類を救濟する光明は所有る天

下の博學者に求むるも不可得なりとして、獨り深山に入りて發見せんとす。山に入りて始めにアララ等の仙人を訪うて道を求むるも未だ眞理の終局にあらずして獨り自己の胸臆の寶庫を開くにあらざれば眞理の光明は發見すべきにあらずとして、伽耶の林中樹下石上にして自ら自心の中に於て一切智を發見し給へり。自ら無上道を悟りて獨り自覺したるのみにあらず一切の人類も同じ。乃ち嘆じて曰く、あゝ奇なる哉一切衆生云何ぞ具に如來の智慧あり、迷惑して見ず、我當に教ふるに聖道を以て其をして永く妄想を離れ、自己身中に於て如來廣大の智慧を見ること佛と異なること無きことを得しめんと。

眞に己を助け己を修め己を養ふの力は己にあり。自から自己に無限の力あることを信じて以て開發すべし。

ジョン、バンヤンは二卷の書籍を材料とし自己の經驗と空想とにより空前の寓意小説を作れり。其の小説が全世界に感化を及ぼすこといかにばかりぞや。彼は獄中に呻吟

せる貧窮無學の桶屋なり。彼は獄中の寸陰をも徒費せず、圖書館の便あるにあらず、また他の助力を得しにあらず。必要に迫りて自己の精力より喚發したる光によりて小説は現はれたり。彼は自己の胸中にいかなる書にも絶えて得べからざる一大寶藏の存在せるを自覺したるなり。

トマス、ポールは畫家不朽の傑作を以て世界に輝けり。其の幼少なる時はボストン博物館の掃除番なり。

人自己に自助の力潜在す、何ぞ自ら揮つて發展せざる。ピスマーク曰く、一定の目的に全力を注げと。

樋水漏る時は水車を動かす力を減ず、吾人の思想は其の目的の事業に向つて精力を注ぐ時は必ず成らん。精力は源泉なれば精力を蓄積して濫に消耗せざるを要す。思想を二三にする時は一をも成じ難し。飽くまで無益の煩累をさけ、無用の勞力を除き全力を一事に傾注するの習慣を養ふべし。多方面の勞力は勞多くして功少なし。精力は

一處に制して力あり活氣あり。多數の矢を一束にする時は強固なりとの例は個人の精力にも應用す。天下の青年は一事を完全に成し遂れば満足安心してふ一大報酬あることを知らざるべからず。

又曰く未成の仕事は以て仕事と稱するを得ず一種の腫物なり、流産なり、偉人が大成功を致せる所以は唯一時に一事を成し遂げずんば止まざりしにあり。

慾

人の精神を區分して理性意志と動物欲望とす。理性は自由なる自我にて動物生活即ち肉慾を指導し宜きに指導して目的に従事するにあり。若し理性意志が發揮して自己の動爲慾望、感覺欲等を制裁して、其のよろしきを得るものは、三善道にして、動物欲望のみ發展して理性曖昧なるは劣等なる動物と同じ、邪見逆惡、殘忍酷薄、暴力の方面が、強く發達せるは地獄的能力にして、暴飲暴食飽くことを知らず、色に荒み、

斯の如きの感覺欲は一定の快樂屢々行ふ時は、其の機能が麻痺して感覺減少す。益高度に進まざれば快樂の目的達せず、益々進昇してつひに肉慾の病的と爲る。唯肉欲の力のみ發達するは即ち餓鬼の力なり。

財慾の餓鬼

金錢等の財物に貪戾暴欲は金錢の奴隸なり。

エマソンが曰く、「富める心なき富者は一個の醜き乞丐なりと。

マードン曰く、「白頭の翁が食を乞へる有様甚だ傷し。尙一層憫むべきは金を積んで北斗を支ふとも、冥途のみやげとならざるに、眞善美に對する熱望を抑壓して、空しく蓄積して金の番人となり、財を腐らし併せて身を腐らす、死に損ねの爺なり。借間す梅干爺の寶の持ち腐れよりも可憫なるものありや。是らは人間にあらずして餓なり渴なり、熱病なり乞食なり」と。財産も恥心を失ふときは一種の祟なり。世襲財産は尋常一般の青年には常に失敗と死とを意味す。

又曰く金錢は空しく之を蓄積し或は濫用して流通を妨ぐる時は弊害百出し人情を沒却し道德を紊り精神を腐らす。

欲てふ一種の寄生蟲ありて幸福と快樂とを蠶食す。こは利己心と嫉妬不満足と恐怖不安貪慾際限なき野心の小惡魔にして、財産の増加に隨て益其の勢力を逞うす、是餓鬼の力なり。

○

鍋島閑臆曰く「衣食より始めて儉約致し軍國天災の備は勿論窮民を救ひ（中略）我ら衣服の義去春一通申候へども未だ意に合ひ申さず漢の孝文は衣を三度洗濯我朝にても松平太郎上杉鷹山は斯の如しまして我の如きもの幾度洗ひてもよき事なり故に國許にては木綿ばかり着用可致候飲食の事我ら幼より奢侈に致し候へども此節は朝飯は汁香物二品限り夜食は味噌鹽にて宜し右の趣は其方共より申兼候義につき我から申聞候」

或時領内加瀬と云ふ處には罪人の仕置ありつる日、近侍の士に曰く「明日は罪人の仕置爲る由なるが國中の者我子なり重き罪科を行はしむるはいかにも不便の次第なり。明日は精進にすべし。一體罪人の出つるは政事の行き渡らぬ故にて誠に國の恥辱なり。」と

伊太利殉教者サウオローラ法王より大僧正の僧位を贈り彼の攻撃の鋭鋒を緩めんとせり。然るに彼頑として拒絶して錦の衣紅の僧帽我に於て何かせん。威儀を装ひ高官を望まん心あらば何を苦んで法衣を纏ふ必要あらん。余は義務の爲に一身を犠牲に供するの覺悟なりと。火刑臺上の灰と消ぬ。

佛國大物理學者アボウジ二十七年間努力せし書を下女に焚かれたり。

熊澤藩山は、憂事のなほ此上につもれかし限りある身の力ためさんと。

エリザベス、フライ嬢は倫敦富豪の女なりしが自己の奢侈生活を改め慈善家の名ありその手書の坐右の銘に曰く、

一、時は金よりも大切に寸陰も無益に浪費すべからず。

二、堅く信實を守り毫厘も虚偽の言行あるべからず。

三、人の悪評をするな人の長所を見て短所を見るな。

四、人に怒るなかれ。不親切なるなかれ。

五、節儉を守りて決して奢侈贅澤するなかれ。

六、何事をするにも用意周到なるべし。而して正を行ふのに困難を感ずれば飽くま

で神に信頼し神の助力によりて遂行すべし。と。

屈指の天文學者ミチル女史成功の後も婦人通有の虚榮心なく粗衣粗食を以て學生に勤儉を教へたり。余が所有の衣服全部の價格十七圓に過ぎずと。

米國有名の教育家ライヲレ女史非常な質素克己にて身を持し人の爲め盡したり。善美なる衣服纏ふたることなし。質素の衣服を自から縫縫し極めて無私無慾義侠心強かりき。

性格の主力

正實質素なる勇氣。誘惑に抵抗する勇氣、眞實を語る勇氣。自己の境遇を隠蔽せず眞面目に收入以内の生活を爲すべし。不幸と云ひ錯誤過失多くは意思の薄弱若しくは不斷にする勇氣の缺乏より來る。人正義を知り其の本分を知る然れども之を實行する勇氣少きのみ。

意思是性格の主力なり。

自己の性格を支持し精力を絶大ならしむるは意思が主なり。故に大に訓練し、事物に接して容易に決斷して動かざる習慣を作るべし。

自己の決斷に他人の助言を乞ふ者に至つては全然決斷なきに劣る。吾人はいかなる事件にも自己の精力と勇氣とに依頼すべき習慣を作るべし。

雄大なる目的はあるも唯計畫にとどまり、事業は企てたるも實行せられず、方針は

定まりたるも着手せられず。之等は皆勇氣を缺く故なり。

チラットソン曰く、大事ありて其事明白其要急なるに拘はらず躊躇して直に實行する能はざる者は必ず意志薄弱の徒なりと。

惡風に抗する勇氣。

阿諛は富貴に向つてのみにあらず下へ向つても用ら下の甘心を買はん爲なり。政治家經世家社會の上流に立ちて尊敬を受ける者高潔なる品位確實なる修養經たるもの稀なり。

逆流に掉さんとする者は精力と勇氣とを要す。死魚は力なくして浮ぶ。人社會の風潮と抵抗せんとするの意氣なきは死魚のみ。

良心に反する人望

彼より成るを待たずして我より奮ふ故に、強硬なる脊骨ある者は變動せず。

多數の喝采を得べき柔かな骨は屈曲自在。

バキントン曰く、俗に所謂人望なるものは價值なし。唯其全力を盡して良心の満足を求めよ。然る時は最も高尚なる意味に於ける人望を博し得可しと。

エヂウオルスは最も人望博き人なり晩年其女に語る「マリヤよ。余は近來著しき人望を博しつつあり。余の運命は是までなり。多くの人望を得る人は何事も成す能はず」と。

獨立自己の意見を斷して實行せざるものは怯懦なり怠惰なり愚鈍なり。公明正大の事にして直心に決斷す所あらば渾身の勇氣を揮つて進撃せよ。

執着力

ダイオセニスはアンテスゼニスの教を受んとして其門を叩き先づ拒まる彼頑として動ぜず、是に於て杖を揮つて骨を折る計りに打たんとす。時に曰く「師よ到底余の執着力を破る程の堅き杖無し。」とつひに弟子とす。

剛

毅

剛毅と柔和は兩立し難とは事實は之に反す。溫順柔和は能く男子の特性を作ること女子よりも多きを知るべし。マウトラムは勇敢而も溫厚、婦人を尊敬し幼者に懇切弱者に同情す。ナビールは默せる動物を殺すに忍びずとして狩獵を廢止せり。エドワード親王がボイクトールの戦争に勝ち佛王及王子を捕としたる折、親王は父子の爲に晩餐會を開き周旋に力めたること従者の如しと。勇敢なる親王の懇切なる態度佛王と子の心を動したり。

チャールス五世ルーエルの墓に詣で、碑文を読む。一從卒彼の墓を開きて異端者の枯骨を飛散せんことを勧む。王沸然として「朕は死者と爭ふことを欲せず。此地は尊敬すべき靈地なり。」と。

恐怖を制せよ。恐怖は事實なきに恐怖すること多し一生通じて失ふ所多からむ。溫順敦厚の資性は勇氣の者に之を見る。

斷乎たる意思

一握の綿火藥之を空中に爆發すれば何の威力なし、若し之を特別の裝置を加ふる時は巖をも碎く可し。城をも毀つべし。一滴の水風の弄ぶに任す。一定の方向と不斷の勢力とを與ふれば石を穿つ。意志また然り。志す所透徹せすんば已まざる執着心と勇氣と意志は萬物を開拓す。無智教育を問はず。只奮ふべからざる決心斷乎たる天地を開く。

不屈の精神

アーノルド曰く「一物の上に自己の能力を傾注し之を完成せんと欲せば時々刻々怠らず此主義を實行し以て歲月の久しきに及ぶべし。然る時は習慣性を成して事業はいかに煩瑣なるも困難に耐へ誘惑に打勝つて自己の能力を發揮すべきなり。是克己心なり。

ハックスレー曰く「思ふに訓練の最も重要な點は、自己の爲さざるべからざる事物に對しては、之を好むと好まざるとを問はず隨所に着手して成就せしむる能力を養成するにあり。之れは人生の第一に學ぶべき課業にして而も一生を通じて學ばざるべからざる課業なり。」

一時に一事をなすべし。ピーチ曰く世人は一事に就て三倍の手数を要す。一。豫想。二、着手。三、回想す。余は一時に費し、直に着手し實行し成さんとする事に全力を擧げて完成し次にまた着手するなり。

精力集中の利益

漏水漏るれば水車を動す力を減ず。吾人の思慮は事業を爲すの泉源なれば、益蓄積を豊にして一事に傾注すべし。彼を思ひ是を煩ひ止もなき不安の念と美望の心を生じて徒らに精力を消耗し徒らに成すべき機會を逸するに至る誠に人生の恨事なりと。飽くまで無益の煩累をさけ無用の勞力を省き全力を一事に傾注するの習慣を養生すべ

し。

無用の勢力は不幸なり。勢力は集中して力あり活氣あり。

一定の目的に努力せよ。

余若し假りに年齢二十歳にして今後十年間生存するものとせば、余は始めの九年間智識を集め十年目に事業に用ゐん。是潜勢力を養ふ。

進まざれば退き、大ならざれば小となり、伸びずんば屈す、停止は終止の初にて死に立つ一步。

人物に三あり。一は必ず爲さんとす。二は爲すを欲せず。三は爲す能はずとす。一は尊敬すべく、二は天下無用のもの、三は泣き蟲枯木死灰。

グラドストンは一度着手したる事物輕重大小に拘はらず幼時より終を全うする習慣を習へり。

決勝點に猛進せよ。フェルプス曰く、兵法必勝策は他なし、機會を見出んとする不

斷だんの注意ちうい、機會きくわいに乗じやうするの才幹さいかんと確心かくしんなりと。

「鐵てつは其赤熱そのせきねつせる時ときに之これを打うつべし」いかなる樂らくあるも障さわりあるも此機このきを逸いつするなかれ。

時間じかんは信託物

イクレシアスチカス曰いはく「良心りやうしんは高塔かうたうに置おかれたる七人にんの見張番みはりばんよりも警告けいこくする處ところ多おほし」と

デカート處世しよせいの四格言かくげんに曰いはく、

一、人は己おのれの教育けういくせられたる法律はふりうと宗教しゆうけうとに身みを委ゆたねよ。

二、活動くわつどうすべき場合はあひには迅速じゆんそくに且かつ自己最良じこさいりやうの判斷はんげんに従したがつて活動くわつどうせよ。

三、己おのれの願望ぐわんまうを満足まんぞくせしむるよりは寧ろ之これを制限せいげんして幸福かうふくを求もとめよ。

四、眞理しんりを搜求さうきうするを以もつて一生しやうの務めつととせよと。

沙翁セキスビヤイ曰いはく、汝なんぢの望のぞむ所ところは汝なんぢの白刃やみはを以もつて之これを務つとむるよりは寧ろ汝なんぢの微笑びしやうをもて之これを

達するにあり。

時間の浪費は後悔の基。時間を浪費する忽れ、今日唯一度來るのみ。一度去りて復來らざるなり。時間は天の貴重なる賜の一にして一度之を失はば再び快復し得べからず、時間を使用するに他日の後悔を胎す如き行爲あるべからず。

「餘りに遅れたり」「斯くすることも出來しならんに」そは悲痛の言なり。時間は神よりの信託物なり。一分一秒と雖之を清算するの義務を有す。

勤勉は劣情を抑制す

努力は成功に必要欠く可からず道德的性格に向つて最も健全なる勢力を與ふるものなり。テラー曰く「必ず懶惰なる勿れ。汝の時間を充實に嚴肅に嚴酷にして有用なる職事をなせ。いかにとなれば精神の活動止み肉體の安逸を貪る時に際しては色情これらの空處に侵入し易く、健康にして安樂遊惰なる人の一度誘惑に襲はるゝことあら

んか、到底清潔の徳を維持し難ければなり。而して職業の中肉體的勞働は最も有用にして、色情なり惡魔を驅逐するの効あり。

いかに時間を利用するか。吾人は全く何事をなすか。無意味に仕事をなすか。或は當に爲すべき事をなすかによりて一生を經過せしむるなり。吾人はいかにも時間の足らざるを嘆ずるも其の行ひを見るに恰も無限なる生涯の感あるが如し。人若し時間を節用せば其の成す處測るべからざるものあるべし。出來得る限り能く賢く時間を利用することを努むべし。

人生成功の一大原因は正直にして堅實なる勞作に従ふの性格なり。第一大膽、自信力、堅忍不拔の精神は最後の勝利。該に出精は繁昌の基。働く犬は働かざる獅子に優ると。エマーソン曰く「拂はるゝも拂はれざるもあらゆる時間に於て働けよ。然らば汝は報酬を通ること能はざらん。汝の仕事の優美なると將た粗野なると小麥を栽培すると史詩を詠ずるとは問はず。苟も正直なる仕事をば己が良心の賞讃によりて爲す

ことならば、汝の思想に汝の五感の上にも必ずや報酬を受くるを得。人は幾回失敗するも必ず最後の勝利をうべき天賦を有すと。

敏速は勝ち急忙は敗る

怠惰は安息に非ず、勞作にも倦み易し。然れども決して急ぐべからず。自然は決して急がず。急ぐものは續かず。徐かに又休まず進めよ。人生の大秘訣は決して急がず決して躊躇せざるにあり。人は急がば時間を節用することを得べしと謂へど是誤解の甚しきなり。敏捷は間なり。忽々の間になしたるは叮嚀に事を成すに若かず。

勞作的に忽卒に不規則に勞作を爲すは急がず迫らず徐ろに休まずに規律的に之をなすに比して途上疲困を生じ遙かに骨を折るものなり。

急忙は唯仕事其の者を害ふのみならずまた生命も損ずべし。

惡質を脱却せしむる光明

宗教の意義は宇宙に唯一なる絶對的偉大なる神の力と衆生の信心との投合一致する處にある。

人間には生死の苦惱あり。此の苦の原因は人々罪惡の源たる煩惱を具して、罪惡の薪あるが故に生死の苦惱の火は盡ることなし。靈のことにつきては無明にて、自ら生の從來する處を知らず、死して趣く處を知らず、冥より冥にさまよふ凡夫なり。

然らばこれらの苦の解脱を求めんには絶對的偉大なる力を有する如來に歸命信賴するの外に途なし。

宗教は人生の冥を照す光明。

また人類を苦惱より救ひ出す力なり。

人は人生無明の中に生れ、冥より冥に入り、自ら生の從來する處を知らず、死の趣

向する處を知らず冥より冥にさまよふ。之に對して此心の無明なる人生に一道の光明を與ふるものは眞の宗教なり。人生八十年の旅には悲慘のこと苦惱多し。こゝに於て大なる安慰を與ふは即ち如來の大慈悲なり。

人には肉慾我慾等の意志、自分勝手の惡質ありて煩惱の爲に罪惡を作り人格を墮落せしむ。

人の惡質を脱却して聖靈態に意志を靈化せしむるものは如來の光なり。宗教とは一言に云へば絶對的偉大なる如來の光明と衆生心との投合一致し衆生の心の無明と罪惡と苦惱とより救はれて光明の中に聖き心の生活を得しむるものなり。

人 格

體とは主質。色心を名けて體とす

自我が人格を造る主宰自我一切智力感情意志を主宰し統一する處の主質なり。精神

と身體とを合して本一體たり。「性」は精神の内的生活の特殊の種性「相」は精神の外的表狀、兩面を綜合し統一したる全體性には知に傾き感に強き傾きあるも其の全體たる自我は自己の偏せる性を矯正して中正を得んとつとめ我相の上に表情をも改め正さんとするは主宰なる自我なり。人格の主幹は「體」即ち自我なり。

人の精神は自我の理性と生理的の欲望、即ち人は高等に發達したる理想とまた一方は動物的生活の心理とを合一したる全體なり。

スピノーザは理性と感動の相反對せるを、ヤルフは高等欲望力と下等欲望力との反對を論じ、カントは現象的人間と實體的人間の實賤理性と利己的性癖との反對なるを教ふ。歸する處、人は精神には自由なる精靈と、動物的欲望との兩面を有し、相反對せる性力を以てをる。なれども自由なる精靈が力強くして自己の利己的即ち煩惱を支配し制裁する力があれば人格具備せる人にして、私欲即ち動物欲に精靈が支配せらるゝようなれば人格墮落して謂ゆる三惡道の資格たるものとす。

或る佛國のカセスは人格を組織する六要素として人間、人生、良心、品性、意志、自由之を具有する者は人格と。

人間は本不完全なるものなれども完全に達せんと欲する向上心あり。完全に達して人間の價値あり。法もなく義もなき生活は劣等動物なり。人は天より知と徳との武器を受く。何ぞ己が獸慾を制せざる。人が秩序儀禮を解したるは天の寵兒なり。人の身は虚弱なれども思考によりて尊きものとす。人は富貴慈善なくも正義と公益の爲には盡辭せざるべからず。人は勇進して人格を獲得せよ。進歩發展して自己の本性を研く。人に道德的天職あり。自己の理想を追求し其の劣情を制して理性に服せしむ。自己の自由を以て鉤く迄向上せよ他人を侮る權利あるものなし。

哲人曰く天下の最大美觀は君子の逆境に在ること、尙進んで美觀たるは君子の來りて之を慰むること。

人生

人生の最大目的は吾が靈性を發揮するにあり。知識と道德と能力との發展なり。人生一瞬間なり。この瞬間に於て永遠不朽の大業を企つるに足る。長壽者とは年數にかはらず能く人生を覺りたる人を云ふ。

人は働く爲に生れ來れり。人生を能く満したりとは有爲なる業と人間の義務をよくつくしたるを云ふ。人生を安んぜしむるは行ふ事の正否にあり。義務を盡せば一種の愉快生ず。人生も正しく使用せば満足を感じ。人生に眞意義を與ふるものは精力主義奮闘精勵實行なり。自殺は人生の強盜なり。

良心

良心は天の命なり。神の言なり。胸中の神なり。良心は神聖なる本能なり。人の指導者なり。善惡の判官なり。最善最美の道德律なり。良心は正理の脈搏なり。日々鼓動して吾人に訓告す。良心は惡を識別して惡を避け、良心と共に行くものは安心なり。

品性

品性は完全圓滿に發展したる意なり。品性の力は意志の力の蓄積より成り、能力は寂境に養はれて品性は人震に於て養はる。個の意志を強めるものは反對なる努力なり。勞働は品性の學校なり。品性は知力より勝る。品性なきものは人にあらず。

意志

權能の王なり。此の命によりて行爲す。知識をも支配するものは意志なり。人の榮は正しき意志にあり。意志は他の衝動を支配す。自由の決定も意志にあり。困難にも己を研く材料とす。知識は人生を燈し明す。意志は足なり。意志は善よりも強きもの成功す。惡を避け善に進むは意志の力なり。意志は健強ならば成功をせざるなし。

自由

天は汝に與ふるに自由を以てす。一切の束縛迫害桎梏を脱して不羈獨立せよ。上天下地汝に一任す。自由の權なければ人は選擇も取捨も忠實も仁愛も爲す能はず。自由の第一義は自由を尊重するにあり。自由なければ道德も義務責任もなし。自由を放棄

するものは人格を放棄するなり。自由なきものは人にあらず。人の人たる所以は自由と正理との合調にあり。自由の魂は法を愛するにあり。自由なければ世は器械のみ。

人格を保持する十二要道

理想

人は其の理想に向て進行すべし。理想に對する向上心は自己を獎勵し鼓舞し活動せしむる働きなり。人格のいかんは理想による。

眞理

眞理は人の精神を照す光なり。神聖にして犯すべからず。いかなるものも之に反抗する能はず。眞理は神なり太陽なり。眞理は神の精神にして我が精神に照せる一切の道德機能ここにあり。眞理に依て己を正す。

教育

教育は人生の光、能く世界を明くす。人として教育を要せざるはなし。身體と精神と行爲を進ましむるは教育なり。禽獸の域を離れて社會的生活をなさしむるは教育なり。教育は人を眞正の人にするにあり。

學問

學問は短時間に數千代の經驗を知る。學問は吾人の身を以て世界の無限に逍遙す。三世に亘り十方に及ぼすは學問なり。學問は世界の知識を個人に與ふ。是天下共通の寶なり。萬人と幸福を共にし萬人の知識を聚むるは學問なり。學問は幼を養ひ老を慰め順境に輝き逆境に慰安を得。學問も良心を離るれば精神を失ふ。

義務

義務は人の道を行はしむるものなり。義務に従つて行ふ者は人にして情欲に従つて行ふものは傍生なり。義務は沈鬱、煩悶、失望、落膽を癒す良藥なり。義務は人生健闘の良將なり。いかなる苦にも力を與ふ、義務によつて苦をも樂とす、義務を盡し

たるほど樂きはなし。

規律

規律に従つて生活するものは天意に従ふなり。父子兄弟五倫を全うするは是秩序正しきなり。規律は人格を失墜せず規律なき處には人倫もなし。

正義

正義は人格の骨。仁愛は肉なり。正義の觀念を以て盡すべきことを盡す。正義は人道を進行するの目足なり。正義は光明に向ふ行路なり。

勇氣

眞正なる武勇は大量の美質。人格を保持する武勇、煩惱を退治する克己の勇、人格道德を保持する勇力、惡魔を征伐する勇氣、利己に克ち、遊惰に克ち、一切の誘惑に勝ち、不義に反抗し、過てば改むるに勇なれ、躓きても起るに勇なれ、艱難困苦に勇みて進むは勇なり。煩惱に克ち本心に従ふは勇なり。

堅忍けんじん

堅忍けんじんせずして光ひかりある人あるなし。人生じんせいは忍しのんで磨みがかせんが爲ために諸もろの苦難くなんを下くだせる哉かな。堅忍けんじんの人ひとには不幸ふかうなし、不幸ふかうの裡うちに自ら幸福かうふくを感かんず。忍しのぶ者ものは勇者ゆうしゃに優まされり。心こころを制せいするものは城しろを落おとす者ものに優まされり。堅忍けんじんは大勇たいゆうなり。大業たいげふは堅忍けんじんの結果けつぐわなり。

持久ぢきう

種たねを播まき植うえ耕たがすは良果りやうくわえを獲えんがためにあらずや。終おはりまで持ぢ續ぞくせよ。持久ぢきうは人格じんかくの生命せいめいなり。堅忍けんじんは持久ぢきうにして終局しうきよくの勝利者しょうりしやとなりぬ。大事業だいじげふは力ちからを持もちて遂とぐるにあらず、堅忍けんじん持久ぢきうの意志いしにして遂行すんかうす。根氣強こんきつよきもの勝利しょうりを得う。いかに困難こんなんなる事業じげふにても成功せいこうするまで持ぢ續ぞくする時は成功せいこうせざるものなし。いかなる勇者ゆうしゃも根氣強こんきつよきものは叶かなはず。運うんは根氣強こんきつよき處ところに必かならず開ひらく。鳴なかずんば鳴なくまで待まてよ、必かならず聞きくことを得う。好結果かうけつぐわは持久ぢきうの賜たまなり。

尊敬そんけい

獨尊自重を以て萬物の靈長とす。獨尊は傲慢と反す。自を持ち己が良心を尊んで私欲を挫くが故なり。人は家居して父母を敬ひ、群居して萬の人を敬ひ、獨居しては己を尊敬せざるべからず。

自我を尊とみ私欲を抑へんが爲に人を尊敬す。人格を失墜するは尊敬を失ふが故に自ら賤しめ後人之を賤しむ。人は形の生命を尊重すると共に自由を尊敬せよ。

榮譽

眞の榮譽は人生奮闘の勝利者の月桂冠にして天より功勳を授けられたるもの、眞の榮譽は眞理を把持し正義を遵奉し、人に對して仁、己に對して嚴、萬事に理と法とを見、天の命する處を完全に遂行するにあり。

天 的 人 格

人格を組織する素質稟性は原因と習性によりて成り立てる精神合成物。

偉大なる人格の精美は無限天より個體なる人格の靈種として、かし、而して人格建設の力とし、彼らの意志は天の權化なれば活力生命として人間界に天の使命を齎して人道を開きし者なり。英國の俚言に強健の意志の人と大瀧とは共に自ら道を開くと高壯快濶にして秩序正しき公明正大なる者は自己の爲に天上に昇る行爲の道を開くのみにあらず、すべての世の模範として天上に進むの意を示す。一舉一動獨立自守なる標準は自ら萬人の尊崇する處となれり。彼らが言行は太陽の赫々たるごとく其の言行の光に照さるる時は、孰か己が不正を正さざらん。ウエリントン、フランクリン諸葛孔明、菅原道眞の如きの此の模型に入る。

偉大なる人格の經歷は人間勢力超越の記念碑とも見るべし。偉大なる人格も此の生命に限りあり。然れども其の思想と行爲とは後昆に遺布して不朽の性を有せり。

精力ある彼等の一生の精神の力は長く持續して精神界の一大勢力を刺激して後昆を

扶助す。未來の青年の品性を改良し人格的意志を建設せしむるに足る。彼らの道德的勢力の光火は世の有爲なる人士の精神に點じて展轉して世の道德的光明となれり。

彼の偉人グラッドストン翁、ハーマーストンを評して、予は信ず意志の力義務の觀念不屈の決心ありたればこそハーマーストンは吾人が爲に義務履行上の典型たりと彼が一大品格に認むべき特點は其の憤怒激昂の情に驅られざるなりと。ハーマーストンの精神に輝きつゝある火光はグラッドストンに點じたるにあらずや。

然も其の光火は唯身の一代に止まらずして永遠の世の燈明たり赫灼として光輝を發したり。彼らの光榮なる遺産は過去と現在より將來に充分に死せず。

其の精神と行爲とに成れる人格なるものには永しへに有る性質を帶ぶ。其れ故に偉大なる精神家の精神は千古に亘りて人心を支配す。

人の品性に天然の領分と(因)人爲的の領分(習因)とを識別せよ。天然の領分即ち因とは例へば血性男兒と生るれば終身血性男兒、神經質乃至多感性等又それに終る

べし。

然りと云へども人は天賦の素質に就てさまで失望すべからず。地はいかに荒廢せりといへども、耕して以て收穫豐饒の地とならしめうべからざるにあらず。品性に於ても人の鋤犁を下しうべき領分あり。是人爲の領分なり。之を膏腴ならしむるは人の自由なり。換言すれば人は其の資性のいかに係はらず其の品性に適意の印象を刻みうべきものなり。彼の名工を見すや。如何なる木片といへども之を彫刻し、巧みに己が理想を實現せしむるにあらずや。

人其の品性の上に彫刻すべき理想四あり。一、潔直なる良心(光)二、健強なる意志(威力)三、優美なる雅量(花)四、儼然たる威儀(實)

餓鬼的人格

肉欲餓鬼

肉欲ほど人を奴隸にするものなし。人耽酒嗜味口腹の慾に牽かれ、また女色の爲に奪はるる時は、人格を墮し、其の眞勇を失ひ、榮光を喪し、また健康を害ひ、終に自人格を全く消却して餓鬼道格と化す。肉慾に奴隸となりて自ら甘んじて其の壓制の下に屈伏し、堂々たる男子自ら之を恥ぢざるに至らば良心痴鈍、志氣陋劣野卑、人格を支ふべき其の力を失ひ、人間としての理想の光もなく、人間として行ふべき勇氣もなく、優柔不斷正に食色の鬼となり、終日飲めども飽くことを知らず、終夜色に荒みて厭ふことなく、柔弱にして人格の氣骨なく、つひに人間の其の性格體力ともに人間の資格を全滅し、五慾の奴隸肉慾の餓鬼と變ず。豈恥ざるべけんや。

天は日星の行動と人生とを同じく規畫したるものなり。二者の調和は洵に珍し。此の和合を破るは健康にも勤勞にも大害あり。夜間遊樂怠惰に耽りて深夜尙眠りに就かざるものは翌朝日天に中せんとするも尙まだ床を出でず、漸く眼を擦りて醒起するに當り眞面目なる業を執らんとするも意の如くならず、是天の法則を破り晝夜顛倒せる

罰なり。

吝嗇奢侈、社會の不幸主として我儘勝手より起る。一方は富を蓄積せんとの貪欲と他は之を浪費せんとの妄舉、大企望と大情慾は富を蓄積するも、國民の幸福は從國民の富は主となると、高度の利益を最上の善と見做し、如何なるものを犠牲にしても金錢を神とす。貧民の爲めには今日の文明は貧者には未開のままに止る。彼らは働き食ひ飲み眠り以て其の生を送る。明日來月來年に對して何の準備をなさず。北米印度人と同じく文明の罪惡のみを利用し、文明に伴ふ恩惠利益を使用するを知らず、一生不確定なる不運の日に一大準備をなさず。

人生の不確實、今日の健明日の病、十萬の英人中四分の一は十五歳に至らず、二分の一は五十歳、九十歳百歳は十六人と。

人として健康の法則を理解し、病氣不慮の事件天折の如き結果に對して準備をなすこと當然の職責なり。人間は何程もがきたりとて自然の法則に反して責罰を免れざれ

ば力めて注意せよ。造化は人が無智なればとて自然の法則を變更するを許さず。人間は心智の賦與せらるるあれば之が使用によりて自然の法則を理解するを得べし。然らずんば苦痛悲哀の結果を被る。

専制政治と主人の殘忍も之を罪惡的貪慾の殘忍に比すれば極めて寛大。不幸不運に墮つるものは罪皆己に出づ。

怠惰、浪費、不制慾、不品行の結果今日主義の生計は、考案もなく規律もなく先見の明もなく、稼ぎ出すものは悉く消費し將來の準備なく、自ら困難に陥る準備をなす。

現在のみに準備となるが故に必ず將來を犠牲に供す、明日死すとも今日飲まんとす

虛榮心

世間の稱めを得ん爲に體裁を張り、自己の尊敬を博せんが爲に一身を危くす。流行的生活、ハロー曰く吾人は往々にして馬車の缺乏より自殺を遂げたるものを聞く、パンの一片なき爲に自殺したるものあるを聞かずと。豪奢を事とする負債者は自己の

自由を拘束す。泰然として債主に向ふ顔なし。

名譽は求むるものを嫌ふ。

名を求むる勿れ。名は自己品性と行動の發射のみ。爲すべき義務を完成し勵精刻苦自己の業務に精忠なれば求めずして來り、唯虛名を求むる人は着實忠誠の人にあらずして幻影的のものなり架空的のものなり。

希臘のモーレの神、片手に船の舵を握り、背に羽あり、片手に玉を執り羽あり、故に自由に飛び、舵持つが故に自在に向ひゆく、空にても海にても自由自在、玉は財福を表す、此の神を念じて僥倖を望むものは即ち餓鬼に墮す。

婦人が自ら苦勞と心配と骨折ることを避けて夫の手に縋り肩に荷て贅澤に虚榮を満足せんと希ふ如きは此の類なり。

人格的精神に缺乏する者は意志に人格的素質缺乏の故に餓えたるが故なり。道德的心に充ちたるものは餓えず。

懶惰

聖ボーロ曰く「働かざる人は復食ふこと能はざるべし。」人の生活すべき勞働に對して不平不満を抱くもの、怠惰漢ほど社會の邪魔物はなく、たとへ彼らは死去すとも何人にも惜しまれず。

怠惰は惡魔が導く暗黒。

怠惰は多くの惡を教ふるもの、閑居するもの不善をなす、之が好例なり。水靜止して流れざれば腐敗す。海水の腐敗せず波浪澎湃須臾も靜止せず。働かざる人所謂怠惰の人は少しく天然に學ばざるべからず。然らざれば其の腐敗は必せり。怠惰は精神の死なり。活ける人の墳墓なり。萬惡の掃溜なり。勤勞は聖人を生み怠惰は惡人を生む國の存乏興廢も勤勞と怠惰による。設令身富貴なりといへども若し逸樂遊惰に日を送らんか、社會に生存する資格なきなり。社會に無用の人間なり。富貴は怠惰を認可するものにあらず。富貴にして怠惰なるものは常に當人に於て社會に裨益せざるのみに

あらずして後代に無能の兒孫を遺して社會に永久の厄介物を遺すべし。

怠惰の癖ある學生は多くは皆放蕩兒と化するなり。才能あるものは勤勞によりて益其の才能を發揮し、資産あるものは勤勞によりて益々其の資産を増す。怠惰が氣力を殺ぎ體力を衰へしむること甚だし。勞力の過度は時に疲勞あるも身氣を疲弊せしむるものにあらず。怠惰は身と心とを疲弊せしむ。元氣爲に衰へ知力爲に鈍く萬事無資格の人間と化す。怠惰は無能者を造る。早く衰老する。人は天然に活動的動物。一日も暮す能はず。怠惰は全然無爲として見るべからず。善事に對しては無爲なり惡事に對しては大に有爲なり。怠惰の無爲は無爲の最も惡なるもの。怠惰人の働は惡を働く。消閑の戯を弄ぶ如きは怠惰の上乗とも云ふて可なり。

怠惰の兒童は斷じて發達せず。遊ぶのみを知る。人生は價重し。光陰は貴重なり。之を無爲遊惰の裡に送るは何たる痴漢ぞ。貧賤に陥り衣食に窮し果ては憐れ人を乞ふ是怠惰の結果なり。

遊戲宴會演劇及び其の他無用の競技等は皆青年の才能を空費せしめ青年の身心を汚毒し其の一生を誤るに至りては此の種の遊樂より害毒なるものなし。

惰眠は死なり。惰眠の一生は人生の日に數ふべからず。惰眠は活動生命の中止一種の死と見て可なり。惰眠を貪る人は長壽なりとするも極めて短命なり。

病的我慾財慾

我慾の爲に他を殺害し、他の物を劫奪するが如きは即ち地獄の業なり。餓鬼は刑法的犯罪にあらざるも道德的犯罪の點に至りては同じ。

餓鬼的我慾の性質に二種あり。陽的我慾と陰的我慾となり。甲は強剛我慾の爲め他の財を奪ふも陽にして敢て隠さず他を脅迫して物を奪ふ、即ち強盜的にして陽はに他の財物を奪ふ。乙は竊盜的にして陰に他の物を劫むる如し。剛なるものは夜叉羅刹勢力の鬼神の如く人の財を劫めて己の富となす。剛は怖ろしき相、乙は陰に隱密に他の物をかすめて己を富ます者、甲は怖畏癡猛の相、乙は可憎卑陋なる相。

權謀術數を以てまたは阿諛諂曲を以て人の甘心を求め己を利するもの、似偽物を賣りて暴利をむさぼり暴利を以て金を貸し若しは陽に若しは陰に人の財を横領して己を富まし、主人の財を劫めて富を作り、後見人となりて幼者の財を却むるもの、權謀術策を以て他人の財を取るもの、阿諛諂曲人の甘心を買つて利を得んとするもの、賭博等の賭事を以て作りたる財、他人に勞働の分を掠め取て富をなせし人、身王公の高にありて卑吝賤むべき守錢奴あり。豪富の主人吝嗇にして若し一錢の損失ある時は己が生皮裂かるるが如き感ありと。紫袍金襴を以て身を裏める餓鬼あり。金殿玉樓に在て神は鬼界に住する貴公子あり。

數多の勞働者の汗膏の分を掠めて己が華奢の料となすあり。人の財を横領して己を富まし賭博を以て財を造りまた權謀術策を以て家を富まし阿諛諂妄人の甘心をかつて利をはかり主人の財をかすめ後見人となりて幼者の産を掠むるが如きすべて不正横道に己が我慾を逞しうするものは皆餓鬼性格なり。

似偽物を賣り高利を貪り、身厦屋に栖むとも心に不足不満なるものは即ち餓鬼なり。高位に在りても其の心卑吝なるものは即ち貧賤なり。

懈怠にして自活する能はず自殺するが如きは人格道より自ら墮落して鬼道に陥れり。他人の財を強竊盜によりて奪ふは地獄なり。

肉慾の爲めに衛生を害し道德を破るは是餓鬼道の業なり。營養生殖は生理の自然にして自然に適ふかぎりに於ては敢て罪惡と云ふべからず。然れども此の營養生殖を快樂の如くに見なしてつひに爲に生理上の害をなすに至らば罪惡たるを免れず。

守錢奴

守錢奴の唯一の快樂は貯蓄にあり、貪欲者は黄金を以て偶像となし、其前に九拜す。彼は消費せざる富を蓄積し他の浪費者のために濫用せざるの餘地をなすにすぎず。

體裁を張る。他人より尊敬的人物と仰がれん爲め力一杯張る。尊敬却て自尊心を沒却する衣服を偽善體裁を造れば足れりとす。ウィリアム、ラムフル曰く、自己にあり

もせぬをばあるらしく見せかけ所有せざるものを何か所有せらるらしく力むるに汲々として心安ぜざる人はすべて不道德的の根本と。見せかけ主義は尊敬を受けん爲の美服美宅虚偽不道。彼らは一躍して高位置をば欲し、主として卑劣の手段必死の方法を辭せず。體裁を粧ふに奮闘し中に在て上を粧ひ其趣味を汚し、品性を殘害し心智を下賤にし不道德の禍根は外形を修飾するに外なし。上級の風習に倣はんと力む。

之を持續するに總ての危険を冒して顧みず浪費奢侈に耽り、名譽を失ひ破産零落一步も進み難き、欺騙詐僞虚妄を以て商業取引を亂すは外形修飾を力むる病なり。

空想餓鬼

人人格を豊富にすべき素質に於て缺乏する時は、其の精神空想的餓鬼道に墮せん。人間の天職に竭すべき義務感情なく、一定天職に對する目的なく、唯空想に驅られ、人格を建設する意志なく、唯不健全なる好奇心に欺かれて見込もなき小説家たらんとかまた俳句の宗匠たらんなどとまたは虚榮心にほださるべし。或は寄席芝居の餓鬼と

化せば自己の本分を忘れて演劇の空想に耽り、または醜猥淫靡なる小説畫はがきなどに魂を奪はれ、貴重なる意志と時間とは爲めに葬らるれども、自ら之を惜しきとも感ぜず、よしなき世間塵的談話に快を求めて心の慰とし、其の精神に於て想像病に罹れる時は空想に空想、疑心闇鬼を催し、或は杞憂神經を痛め、或は病的思想を浮べ、狂的情念を溢しめ、空妄なる幻影を盡きて以て自ら心性を疲勞せしむるに至りては、想像病即ち空想餓鬼と化したるなり。其の他憎惡の念に支配せられて恐懼の心に侵されて始終仇敵を作り怪物を夢みるが如き、皆想像病の結果。かくの如きは已に皆人格を損し人間として自我を失ひたるものと云ふべし。

此の想像病に打ち勝つ方法は他なし、克己を以て精神となし、制欲を以て好奇心を矯正し、活動以て空想を飛散せしめ、人の正直と親切とを信ずるの心を起し、己が胸中には自信自任の念を溫め、先づ自ら助けよ天必ず汝を助けんと云ふ主義を實行すべし。

意志の徳

徳の中心は意志、衝動は自發的の故に常規を逸す、故に理性の指導を要す。理性の指導の下に衝動が發達し意志の善良なる習慣を成せば徳と云ふ。

情 善を愛し惡を嫌ふ。親切仁愛

徳の種類

智 行爲の價値を照し方法を撰む。智慧正眞
意 克己忍耐等

ソクラテース 善を見て行はず惡を見てさけるは、善惡の概念不明故徳の智なし。
知なければ徳なきなり。

プラトーン 人の精神に理性意志體慾の三素あり人の有徳意志理性を以て他の二者を制御する智は理性なりと。

働 け

ロングフェローの人生觀に、人生は實在である。人生は眞面目である。墳墓は其終點ではない。樂も悲も吾等の運命でもなく又道でもなく、たゞ働きて今日より勝れたる明日を見出すことがそれである。

ビーコンスフィールド侯曰く、偉大なる思想をもて汝の精神を養へ英雄たらんと欲するは英雄となるの楷梯なりと。フイヒテ曰く、萬物の死するはその生るるなりと。吾人は人と生れし甲斐として其目的に自覺しその目的を實現する爲に絶えず活動して進め。主義は目的を達する主なる手段方法、秩序あり系統あり、主義を貫く方便。石を形成する分子渦運動なし、植物には、斷えずあり。

疲勞の終點を越えて

非常なる必要に迫られて、常人の堪へ得ずと思惟したる苦痛をも敢て堪へ得たる場合は、驚くべき結果を生ず。疲勞は一轉して或時は急激に又は徐々に消散し、以前より却つて爽快を感ず。此の場合には疲勞の障礙を破つて更に新しき精力の源泉に到達

す。此現象を経験したるものは世に多かるべし。第三第四の生命を得たるもの亦少らざるべし。此現象は物的活動と同じ心的活動にも顯る。疲勞の終點を越えて未だ會て夢想だにせざる精力安慰の泉源に達す。唯以前は此の障壁を擊破する精力足らざりしなり。

障碍物は踏み臺のみ

西人曰く、樂觀する人を成功せざらしむるは不可能なりと。彼の前途に障碍物を置かんか、彼は之を踏臺として一層高きに登るべし。彼に貧困を與へんか、彼は貧困の柏車に刺激せられ愈々猛進すべし。彼の兩眼を奪はんか彼はフオーセツトの如く遞信大臣となるべく、彼の兩足を奪はんか、彼はウエバリ、ノーベルを著述すべく、彼を獄に投せんか、彼はロビンソン漂流記を著作して快哉を號ぶべしと。

或人曰く、余は四圍の人々に幾分にも利益を與ふことを得ば、必ず無限の快味を感すべし。

他人の利益を圖るは容易の業なり、此心さへあれば必ず得らる。汝が勵まし得べき悲しめる人もあるべし。下婢の爲に水汲の助力をなすもまた妙なり。いかなる細事なりとて合すれば大となるなり。汝らよたとへ外觀が卑賤なりとて避くること勿れ。業務の貴賤あるは執務者の人格の高下あるが爲のみ。崇高なる心をもて従事する時はいかなる業務にても崇高ならざるなし。

一、人になる法

人に 一、凡人已下、廢人かたわもの、薄志弱行、根氣なし。二、凡人、並の人。三、俊傑 ずばぬけた人あり。

根 氣

根氣、一心不亂に物事を考ふる心の癖は人たる根本美德。これなければ到底眞人間になれぬ。萬能足つて一心足らず、之不成功の基。アークライトが紡績機械、デー井が安全燈、モオスホイーストンが電信、其他ワットやニウトンを見よ。

氣を一事に專注する

ニウトン曰く、自らの他に勝ることは單に注意力の一點なりと。英の小説家ヂッケンスも我が成功の第一の祕訣は注意力の人に超へたる點にありと。ウイルモットは注意力は神才を造ると。あらゆる學識、風雅の才、あらゆる科學上の發明皆之に基く。

二、豪傑になる法

第一大切なるは意志。意志が地盤。智情は之を固めるセメントの如し。豪傑と凡人との區別は意志の強弱に定まる。精神一到何事か成らざらん。

自診して意志弱からば心を入れ更へよ。意志薄弱な生れつき程憐なものはない。

忍耐力

人間の他動物に異るは自制克己即忍耐である。

忍耐の定義 自分に大小二の望ある時は大なる望のために邪魔となる小を思ひ切つて棄つる。耐は根氣の功勞經たのである。

苦痛に出あふも、めげず、恐れず、へこまず、たわまず、しほれず、ちゞまぬ強烈なる根氣。又如何なる誘惑に出逢ふてもゆがまず荒まず蕩けず堅牢な根氣我。大志を貫かん爲めに如何なる恥辱をも忍び、如何なる事も忍ぶ。克己復禮。身を殺して仁を爲す。皆忍耐。

克己 献身の修行

豪傑になる稽古。節欲試験。忍苦の稽古。

忍苦と節欲とは豪傑になる二の土臺石なり。

古人曰ふ、忍耐は知識に勝る。忍耐は天堂極樂に入るの鍵と。

三、勇の三種

忍は女性的の徳、勇は男性的の徳なり。剛毅とは忍耐と勇敢との折衷なり。
勇の三階は、

一、盲勇。劣等勇、野蠻勇、向ふ見ずの勇、曝虎憑河の勇、體勇なり。無智無道破

廉恥、盲者の鐵面皮の勇は世故人情に通じて利害安危を知るに至らば大に怖る。

二、恃勇。何か恃む處ある勇、必勝を期し若くは避險の工夫あるの勇なり。自家の腕力、智力、辯力何かありて之を恃みて勇あり。

三、眞勇。義の存す處利害を度外し直往の勇なり。正を履みて懼れざる勇なり。榮辱死生を眼中におかず。爲すべきが故に爲し、往くべきが故に往く。正理と人道とを恃とす。孔子匡の衆にあふ。文王已に没し文茲にあらずや。天の斯文を喪さんとす後死者斯文に與ることを得。天の斯文を喪ざるや匡人其れ子を如何せん。

曾子が自ら反りみて縮らば千萬人と云へども我往かん。内省不疚、何愛何懼。天德を予に生ず。桓魋其れ子を如何せん。

四、偉人三道具

根氣と忍耐と競氣。

曰く勇敢なれ、曰く熱心なれ、曰く競氣旺盛なれ。一度信じ之を斷言し斷行するに

は、水火を辭せず刃彈をも避けず。若し萬一自己が信じたる事が非なりと悟る時は、如何なる不利も大恥辱をも危険をも怖れず、翻然として改悛し、廣く世に表白するを憚らざる大勇氣。又一度事に當つては一段落に達する迄は一心不亂、絞るが如き食ひ入るが如き燃ゆるが如き燒くが如き熱心、いざといふ時は半眼的でない睡眠的でない悉皆を手に入れるか然らずば悉皆を抛たうといふ程の熱心、己が任務職業に全身を打ち込む熱心。此が第二の利器。

第三の利器は己が志す事業に對し、毎に圓滿を追求し理想を角逐し飽くことなく倦むことなき競氣。

競氣とは爭心妬心などの意味にあらず。人の生具の一種の生欲としての競氣、俗に云ふ勝氣、まけじ魂、きかぬ氣。彼も人なり、我も人なり、舜何人ぞと意氣込、己が専門の大家名家と角逐せん競氣、おのが不善に愧ぢ、他人の不善に慚づと云ふ佛家の慚愧、賢を見て齊しからんと思ひ、不賢を見ては内に自ら省る。彼の虛榮名聞は

ほんの鼻の先の利己一邊の競氣の作用、眼中他人ありて之を排し之を凌駕せんとする邪念惡意を伴ふ妬心害心は悪い。

向上心の競氣は理想を追ひて果てしなく前進し、圓滿に實現するまでは退轉せず休まず、他の同志と共に同じ理想を追ふにあたつても、其争や君子、決して猜み怨むようなことはない。眼中に無形遠大の理想のみあつて有形近小の個人はない。競氣あれば熱心生じ勇氣忍耐伴ふ。

五、獨立自全

獨立自全に形體上 幼年時代、修學時代、一人前時代あり。

六、不自欺——誠

誠とは聊かの虚假もなく聊かの偽飾もなき心持をいふ。人を瞞着せざる天真爛漫言行上に顯はすが誠なり。或は本性満足と云ふ。自分勝手にならず。誠なり忠恕なり克己なり。其守るべき道德内容明ならずばそれを修めて完からんこと頗る覺束なきな

り。直覺も道に叶ふことあり。然れども其觀念確ならざれば世間の僻説邪論に迷はざるゝあり。

誠の一言、不欺自、不欺他の二あり。

不欺自に三あり。

第一、自家の眞價を知る。

活動なり。實踐躬行。實地に於ける我が力能技倆の活潑に陽氣に臆面せずして他人とつき、或はその技倆を双べ自己の價値を知るは比較對照すればわかる。我短長を知れば他人と我とを比較し己が短を知り勉強と謙遜とを怠ることなかるべし。

己の眞價を知る第二は我が敬信する師長の批判により我の敵は陰口惡口などは注意し置くべし。双方照して相等合致一の點を以て眞價の大むねを知るべし。

第二、人間の眞欲を知るにあり。

人の本性は一に利己にあり。自分勝手肉體若しくは精神の快樂を欲し蠻夷的暴力を

擅せんにするを欲ほつするが如ごときは人の眞性しんせいを知らざるなり。

人は自衛じえい自愛じあいの念ねんの切せつなると共に社交しゃかうの念ねん同感どうかんの情じやう亦切またせつなるあり。兼愛交利けんあいかうりは其性そのせうの向むかふ所親きん和協同わけどうは情じやうの悦えつぶ所、此理古今このりここんを貫つらぬいて渝かはることなし。利己りこに偏へんするは未いまだ發展はつてんの全まったからざる程度ていど。人は安逸あんいつを好このむも其最主そのもつともおもなるは活動くわつどうなり。破は壊くわいなり。建設けんせつなり。天工てんこうを補削ほせきし自造自化じざうじくわす。勞らうを厭いとひ逸いつを求もとむるは懦弱だじやくの習癖しふへきに外ほかならず。

第三、自己じこの天職てんしよくを知る。

自己じこの禀賦特質ほんぷとくしつを明あきらかにし、己おのが本領ほんりやうの發揮はつしを誤あやまらざるやう力つとむることなり。文明ぶんめいの精髓せいすいは人々其天分ひとぐさのてんぶんに應おうじて事業じげふに任にんじ協同けどうの大功たいこうを建たつるにあり。專業せんぎやうに各其天分おののくそのてんぶんを圓成えんせいすることを力つとめ、應分貢獻おうぶんこうけんの實じつを擧あぐるは文化ぶんくわを裨補ひほす。

惡あくの根こん

私欲しよく一方いほうの爲ために自他じたを損そとふ。私欲しよくの外ほかなく、自身じしん一身しんの爲ためばかりでなく他人たにんを害がいし

たり或は自分を害したりする。我儘一圖、排他的忘他的、之惡の根なり。

善惡の標準

形式觀 目的觀あり。

人には目的あり。其目的に適ふ意志と所行を善と云ふ。

形式觀は人の心の据方若しくは其行爲の性質を調べて、其性質次第で是非善惡を定める。本然觀ともいふ。自分の良心によいとおもへばつとめ、苟にも惡と思ふことはせぬ。夫を善といふ。

形式觀は善惡の内容實質を示すことなく規式だけを規定す。内容の變は時代によりて曾て善なりしも今は惡なるあり。

目的觀に二種あり。一、各自の常不斷的意識に求むる快樂、幸福、安心と云ふ如き。二、意識以上に目的を求む。自然主義、進化主義、圓滿、功利。

目的觀は本來人が道德を修むるに自分の爲か他人の爲かと、又個人の爲か團體の爲

かの二派に、個人主義と社會主義。社會に國家主義、人類主義。

社會の安寧を道德とすれば、社會及び個人を殘ふを惡とするなり。

明瞭に社會は二人已上なり。惡とは自分勝手一方で他人の心持を害す、惡感情。

次に自分勝手一邊から他人の自由行爲の自由を妨ぐるを惡といふ。三に他人の身體健康を傷ける。四に他人の財産を毀損す。五に名譽を殘ふ。

身體、名譽、生命、財産、自由は中の心持なり。

善の分析 根本

第一に單に惡ならずと云ふに止まらず積極の性質。第二に及ぶべき根本、其上には分析しがたき。第三に時處事情に拘はらず、之を心中に懷く絶對善。第四に何人も老少を問はず行はんと欲し志あれば能ふべきこと。第五に今日から意識して努力すること。第六に道德圓滿せる完全無缺の社會に於ても必要なこと。

根本は愛なり。人を愛し且つ己を愛するが善の根なり。

愛（大切に思ふ）

甲、我身の一分又所有物の如く——親（したしむ、なづむ）。寵（かはゆい、めづ、いつくしむ）。好（すく、このむ、たのしむ）。隱（痛む、不愍に思ふ、氣の毒がる）。惜（をしむ、ほしがる）。惠（あはれむ、かわゆがりめぐむ）。憐（いとをしい、めづ）。

乙、我身と同等——寵。惠。慕。仁。慈。

丙、我身より上——愛敬。憬慕。渴仰。追慕。尊重等。

愛は多義曖昧。

自己を同等に大切に思ふ心。人の苦樂をも我苦樂同様に我苦を抜かんと欲するを擴充して人の苦を除かんと欲し、我樂を加へんと欲する心を推し及ぼして其人の樂を加へんと欲する心。

孔子の忠恕。他人の心を思ひやる。

性の重複

性（インスタシククト）とは人間の生れながら具へ居る根本心質、造化が人に與へたる性。質とは異にする遺傳。

性は造化の賦與。質は父母の賦與。

徳とは醇化したる性なり。

性に二方面。一、自衛性。二、社交性。

自衛性は爲我。教へざれども自分の利不利、身の上については自分の持前。社交性は同情性。爲他性。これと心づきたる理由もなく利害もなき場合にも他人の事が心に浮び他人が戀しく又なつかしく何となく思はずに居られぬといふ心。

一自衛

唯爲我私欲一邊

消極

忘他

自利害他。

積極

排他

自利害他、自害々他。

性(せい) (稟(らん) 天(てん))

社交(しゃかう)

分別上(ぶんべつじやう) 自他平等(じたへうどう) (自愛(じあい))

感情上(かんじやう) 自他平等(じたへうどう) (恕(じよ))

主爲我(しゆわが) (同感(どうかん) を求むる心(こころ))

消極(せうきよく) 謹慎(きんしん) 自利不害他(じりふがいた)
積極(せききよく) 自重(じちよう) 自利々他(じりりた)

忘他(はうた) 純同化(じゆんどうくわ) 自利々他(じりりた)

自識的(じしきてき) 半同化(はんどうくわ) 自利々他(じりりた)

他の樂(たのらく) を悦ぶ(よろこぶ)

他の苦(たのく) を見るに忍びぬ、惻忍(さくいん) — 自利々他(じりりた)

愛敬(あいけい) せられたく思ふ、好譽心(かうよしん) — 自利或害己(じりあるひはがらこ)

憎惡(さうを) せらるゝに忍びぬ、慚愧心(ざんきしん) — 自利或害己(じりあるひはがらこ)

意識發達(いしきはつたつ) して自他分別生存競争(じたへんべつせいぞんけいさう) の必要生ずるに隨(したが)

爲我(わが) 心(こころ) が他(た) を殘害(ざんがい) せざる限りは倫理上(りんりじやう) 非難(ひなん) すべき點(てん) もない。爲我(わが) も或程度(あるていど)、自分(じぶん)

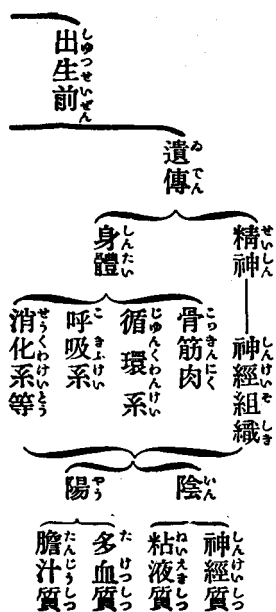
の爲(ため) と自分勝手(じぶんかつて) の區別(くべつ) あり。

消極(せうきよく) の正義(せいぎ) 苟くも一毫(いちごう) たりとも他人(たにん) を犯(をか) すことをせぬといふ心掛(こころがけ) は消極(せうきよく) の正義(せいぎ) 。

積極の正義 他を益せざる可らざる義務ある以上は自分の身をそいでも他人を益せざるべからずとの心掛は積極の正義。

社交上の度合は人によつて異なる。即ち性質の異なるにより一は遺傳、二性別、三身體及精神の變動による。遺傳には神經組織の強弱健不健に基づくべく、身體組織の強弱によつて感じが違ふ。

質は人の顔の異なる如くに人々同じからず。煎じ詰めて見れば度合の相違に基く。質を大別して陰陽の二となす。



質しつ

出生後
しゅつせいご

性別
せいべつ

女をんな 男をとこ

身體的
しんたいてき

年齡ノ變移
ねんれい へんい

有機狀態ノ變化
いきじやうたい へんくわ

疾病、結婚、氣溫等
しつぺい けつこん きをんとう

身神疲勞、營養不足
しんくひらう たいやうふそく

教育
けういく

身神的
しんくでき

職業
しよくげふ

境遇居處
きやうぐきよ

自省自強
じせいじきやう

精神的
せいしんてき

情神錯亂
せいしんさくらん

大悟徹底等
だいごてつていとう

道德

對他
對己

忠恕

自適及遇
一視同仁

修己安人、齊家奉公、近親和交、世間國家、人類動植有秩序の博愛
四海同胞、男女長幼貴賤、貧富賢愚、才不才、學不學、病健、用廢、恩怨、親疎、
同遇平等一如

誠

不欺他

不矯飾

容態服裝尙自然嫌虛假排僞嫺雅排僞豪英。
辭達而已、不綺語、不阿諛、面從不設城壁、不銜耀、不虛唱、不僞
飾、排僞善

言語行爲

不先形式

先誠意排盲目的機械的循俗的言動虛禮虛儀、精神主義。

知自己眞價

活動、實踐躬行は自知第一、法排閉居獨斷、寡聞孤陋、師長の批判と敵
人の刺激とを目安とし、不自滿、自身毀譽に動かされぬ、謗罵を意に介
せず、不重人爵、自憐。

知人間眞欲

排利己一邊、排放縱驕恣、排游蕩逸、兼愛交利親和協同、複性満足、向
上の活動。

知自己天職

流俗に従ふことなくして稟賦に従ふ、天才發展、分業専門、專念一意、
應分貢獻、天分圓成。

不欺自

克己

根氣 忍耐 節慾 勇敢 熱心 競爭

自制

自恃

自強不恃他、排^ニ依賴心、人力天惠神慮、運命偶然僥倖、不自卑、不自棄、獨學自修、無限研鑽、自信、自敬、自任。

自省

先自責、自戒自懲、不尤人、不怨天、樂天主義、快活、洒脱、磊落、百挫不撓、一心不亂、十年如一日。

向上

不自滿不休、自造自化、人爲兼天工、謙受益、勇猛精進、欣求渴仰、理想圓現、斃而後止、異體の自我。

圓滿

無過不及、自利々他圓滿、宣嚴并到、緩急自在、隨機應變、絕對宜は絕對理想。

(左より右に讀む)

對	目的		善習	善報		誘惑	惡習	惡報		
飲食	強	壯	適	宜	美	味	飲禁	食慾	飲食過度	疾病
服裝	端	正	清	潔	優	待	磊虛疎	落心懶	不體飾穢	侮惡
業務	自	活	勤	勉	餘	裕	慾情	心心	過怠	弱乏
遊戲	保	養	無快	邪活	興	陽陰	氣氣	放蕩	惰因循	弱
所有	豫	備	節	儉	蓄	財	齊奢	心修	守浪	斥
父母	協	同	忠恕(孝)	愛	(慈)	意我	心ナ迎張	虛軋	禮不	心和
兄弟	協	同	忠恕()	愛	(信)					
親族	協	同	忠恕(信)	愛	(信)					
妻										
子										
										一身ノ獨立
										近親ノ協同

(左より右に讀む)

對	目的	善習	善報	誘惑	惡習	惡報	
朋友	協同	忠恕(信)	愛(信)	迎合我執偏屈	狷介隔絕	孤立	他人及世間トノ協同
先輩	隨協	追同	忠恕(恭)	知遇眷顧	阿諛諛諛	孤立	
幼弱	協同	忠恕(慈)	愛敬	迎合我執偏屈	寬虐待使	狎憤侮怒	國民ノ本務
	自協	立同	忠恕	景慕	濫冷恤酷		
	改協	同	忠恕	悅服	嬌苛慢酷	欺瞞	
社會	協同	修齊奉	身家公	尊重	廢忘常世	憎人ノシ	
國家	獨富文	立強明	國其助	富愛國ノ	貪私	私慾ノ	人間ノ本務
皇室	敷應ル	安ト	實踐ス	忠君ノ	私心	不忠毀	
外國							
人類	協同	忠恕(仁)	愛(同感)	理想ニ偏拘	偽僞博愛	不頑忠固	
動物							
自己	理想ノ	現	謙	天分ヲ盡	自慢卑	天分ヲ盡	

儒佛二教に於ける人格の標準

人生の歸趣を研究するにつき、人格の標準を定めざるべからず。今日學者が人格の標準に就いて種々の説が有るけれども、從來の佛敎亦儒敎に於ては、人格の標準に就いては如何に示されてあるかを明さん。そこで人間に生れた已上は何人も人格具備して居る哉と云ふに決してさうでない。悲哉形體は立派に五體四肢備りて居りながら、精神より見れば人格備りて居る人は稀と云ふも然らん。儒敎では五常と云ふ仁義禮智信の五つは獨り人類にのみ持つて居る性徳である。此五常が全く其身に備りて之を履み行ふ人は人格ある人である。若し五常が具はらず而して之を實行せぬ者は人間でない。又佛敎には五戒を全く持てる人は眞の人間である。五戒とは不殺生、不偷盜、不邪淫、不飲酒、不妄語とである。此五戒と五常とは廣狹の別は有れども義に於ては同一である。

五常と五戒は本一つ事である故、五戒持てる人は五常にかなふ。五常の倫を履み行ふ仁は五戒自ら持てる。

五常五戒に稱ふと否とに就いて、人間と畜生と地獄との三親に人格を區別することが出て来ると思ふ。

仁と不殺生

佛教にて一體殺生を戒むる旨趣は、快意殺生と云つて被害者を恕やらすして自己の快を貪る爲めに殺生するは本人間第一の道德なる仁の性を失ふから惡となるを戒しむるのである。儒教に謂ゆる惻隱の心は仁の端なりとは、人間には天命の性として彼が苦みに對して恕の同情心を持つて居ることは禽獸とは同くない、惻隱と云ふ可愛想と云ふ他の苦惱に對する同情心が即ち仁である。可愛想と可愛と云ふのは似て非なるもの、但可愛と云ふのは例へば禽獸でも可愛と云ふ本能の性は持つて居る故、母雞が

己が育つる雛子を愛して之を保護することは甚だしい。されども佗の苦に對する同情心恕と云ふことは分らぬ。故に若し十羽の雛子あり其中に一羽の雛子病に罹り死に垂んとして居るに拘はらず、母雛は敢て之を憐まぬ。寧して捨て、顧みぬ風をして居る人間は反對にして例へば五人の子あり。皆平等に可愛いが、若一人病氣と爲る時は、佗の四人の事を忘れて専ら病める子の爲に全心を注いで傷つて居る。

佛教は快意殺生を戒しむるのは、若し數々殺生の快を貪ばれば、終に仁の性徳を潰亡して恕仁もない動物同様の性格と成つて了ふ爲である。

人間は理性を持て居る。道理の判る性が有るから、自分が苦惱には怒つて嫌ふ故に佗人も矢張り苦は怖るゝのである。故に己を恕して他に布き及ぼすのが理性と感情との調和したる人に起る美德。可愛想に成つて快意殺生は出來ぬ様になる。畜生と云ふものは如何に柔和らしき小猫でも、小雀杯が快よく遊んで居るを見て、無慘にも忽ちに爪と牙とをかけて殺して了ふ。然れども彼は理性が無いから可愛想とは感じない。

そこが人間と畜生との性別なる處である。本來人の天性として仁の徳は有つて居るけれども、屢快意殺生の習慣性は仁と云ふ美徳は潰へて了ふ。佛教で殺す勿れこの戒は仁の徳を失ふ勿れとの換へ言と云ふて差支ない。禽獸を殺す罪よりも失づ自ら自己の仁と云ふ美徳を殺すことになるのである。自體は生きて居ても道德心は死んで了ふ。全體は人間は理性の光から出る感情や意志を以て人格を具へて居る。天理人道が明かに分つて而して精神生活して居る故に、內的性徳が形體にも表顯されて、頭を天にして眞直に立つて居るように身を受けて居る。畜生は傍生と申して横に形を受けて居るのは、仁恕もなければ義務もない。心が横であるから形にまで表はれて居る。今人間でも仁恕もない人は其精神は已に畜生格に自ら退化するのである。

同じ横ざまな心でも横暴に虎狼に類する人あり、浮は氣にて爲に横に空を飛ぶような正眞な行爲の出来ぬ鳥の様な心の人もあり。何にしても横ざまは畜生である。次に尙一層逆惡邪見の甚しきは地獄格である。其邪見逆惡と云ふのは人の天性とは反對

に逆さまな意見と行爲とである佗の苦に對して仁恕ならざるのみならず、反對に佗人の苦惱に對して自ら快として樂く感ず。例へば殷の紂王が妖婦姐妃の歡心を買ふ爲に罪なきを殺して自ら快とするが如き、又暴王は人を毒蛇にさゝしめ非常なる悲鳴して惱むを見て酒を呑むことを最も樂しと。すべて他人の苦痛を以て自ら快とするは、天性に逆ひ人道に戻る性の故に、倒さまに地獄に墮ち行くの地獄性格と云ふのである。

義と不偷盜

儒教に謂ふ所の義は人格要素の第二の徳、佛教の不偷盜。義とは自ら自己の分を守つて佗を犯さぬこと。義を失ふの最も大なるは佗の物を偷盜するにあり。善惡の心は義の端である。孟子が曰はれた。人間は理性、心から感情が有る故に、佗の物を偷み其佗己が分を踰へて道ならぬ事を爲して、佗人に發見せられたる時は、良心が感情を刺激して忽ちに廉耻措くこと能はず、顔に慚耻の紅が漲ぎるのである。人間は此廉耻

心のあるのは自己の分を守るべき義を犯さぬ自然の性情である。然るに禽獸などの類には廉耻心がない故に、馬が佗の稻を食らひて如何に罵詈されても一向に顔を赤めはせぬ。義を缺ぐ第一の佗の物を偷むに、窃盜強盜計りではない、商人が權衡を以て目を盗み、升を以て偷むが如き、巧工が工業に時間を偷み、其業に依り種々仕事の中に於て識らず盗を爲すことと少くない。皆義を侵して居る譯である。

正義人道に本づき義を全うするものは人格の第二の徳を有つて居る譯である。佛教で偷む勿れと戒められたるは、人格の義の徳性を失ふ勿れと戒めなされたのである。若し不義にして廉耻心なきものは畜生である。正義を倒して横さまな心が横さまの身を感ずるのである。尙甚だしきは邪見な漢である。

現代の刑法に盜を侵し義を犯したる族を懲戒するは、一には良心の廉耻心を利用し、偷盜の惡心を治せしめんが爲である。然るに惡が病的となり良心滅亡し廉耻の情なく還つて懲罰の度を重ねるを自ら誇とする如きに至つては、天理に逆らひ人道に戻り

倒さまに地獄に墮する性格である。

禮と不邪姪

禮には父子君臣夫婦兄弟朋友の禮ありと雖、其中中心となるは夫婦の道を正し、くするにあり。此禮にして正しからば佗は必ず道に契ふこと疑はず。人間は理性ある故物の道理が判る。禮を以て結婚し夫婦別あり。然るに本より唯本能に盲從する畜類に至りては夫婦の道なく父子君臣等の倫常なし。若し人にして横行畜類に類する如きは即ち畜生である。尙進んで無義無禮父母に不孝、父母を苦しめ、妻子を難まし、惡逆を以て君を没し、祖宗を耻しめ、兄弟を煩はし、朋友を欺誑し、社會の秩序を紊し、風俗を壞亂するの惡德を爲すが如きは、禮節秩序を逆に顛倒せる惡人なれば、世の風教上に害毒を流す如きは地獄性格である。

智と不飲酒

五常の智とは理論上の智の謂ではない。即ち智行一般の智にて、己が道行上を識る智、即ち常識の事である。常識と云ふは即ち五常の道に叶ふ智識である。人格要素の自己の覺醒して自己の有るべきやうを知り得る智、己有るを知つて他の迷惑を顧みざる如きは、斯智が缺けて居るのである。人間は佗の動物と異りて意識が發達して理性が開けて居る。他の動物は本能的に生活して居る。

人間は常識の判斷に訴へて己を反省み、他人の如何を照察し、社交的生活すべきである。佛教にて飲酒を戒むる旨趣は、一體人間は常識の智を有つて居るから、善惡邪正が自ら判斷し得らるゝ筈であるが、然れども若し理性を闇ます魔睡劑にかゝると常識が癡痺して仕舞ふ。即ち酔ふと物の是非を明らかに識別することが不可能となる飲酒を戒むる元因は、酔ふて理性を癡痺させることを戒むるにあり。之は腦髓神經を

癡痺させる計りではない。すべて物に酔ふと忽ち動物の本能性が興奮して人間の智慧が隠没して仕舞ふ。酔は亦迷ふ事にて、魔に酔ふわけである。人其の子の悪しきを知ること無しとは其の子の愛に酔ふから唯其惡き點は見へぬのである。總べて物に酔ふと理性が隠るゝから有の儘に見へぬ。例へば男子が或る女子の爲に迷ふ時は其人の缺點は見へぬ。或は先づ第一人は我痴我見我慢我愛と云ふ根本的己に迷ふて居るから、自分の缺點を認むること難い。自分の智の不足なることを自覺するが自覺を爲す基である。人格を爲すの光明は斯知である。理性の明鏡を曇らぬ様にすれば己が煩惱に酔はぬここに常に心懸けねはならぬ。是非善惡を識別すること出來ぬ常識缺けて居るものは畜生格である。尙進んで智を惡用して邪見邪知、佗人の豪血をしぼりて己が肉に供するに至る。邪見人は天理に逆らひ人道に戻り神明を尊崇せず因果を撥無し自ら邪見邪知の燈火を以て聖人の日光を仰がず。己が邪知に酔ふて逆惡を以て自ら智ありとす。斯の如きの逆惡人は地獄である。

信と不妄語

人には常識ある故に我と人との間に信條あり、約束あり、相互の間に條約を守り約束を履行するから各自の業務も行はれてゆく。即ち信である。信を全うする本は不妄語である。業務上の秩序亦常規を全うするは信である。

人は自信が無くてはならぬ。佗人を欺くには先づ己を欺きて佗に及ぼすのである。秩序も條理も信條もなきは動物である。畜類には理性が無いから約束は行はれぬ。例へば今日使用せる馬に對して明日又來る様と約束しても其は行はれぬ。理性なき馬に對して約束を履行させ様とするは一體無理な話である。若し規約を履行せず約束をふみても敢て自ら責任の感じなきものゝ如きは畜生格である。尙進んで人は啻に約束を食み信條を守らざるのみにあらず、敢へて詐偽、偽證、偽造等を以て己を利し造惡の甚しき如きは地獄格である。

斯の如く儒教にては五常を以て人格の標準とし、佛教にては五戒を能く持ち行なふ者は人道の全き者なれば、又人中に生を受けるの果必せりと。此五徳にして全からば總べての行爲に於ても人道に契ふことたるは必せりと云ふへじ。故に儒佛二教には五戒と五常とを以て人格の標準を定む。

意志靈化の不斷光

如來の不斷光は衆生を靈化す。意志は靈化されて菩提心となり如來の終局目的に協力し、行動に聖意を實現す。

意志の信仰は實行にあり。即ち回向發願心なり。知力に聖靈を知見し、心情に心靈融合の花開き、意志實行は果を結ぶものなり。意志の願望は上如來に冥合し、下衆生と共に安寧を求め、之を實現的に行爲するにあり。

消極的には世俗情操、世界動機、我執の如き天然的我意、即ち肉欲我欲に規定せら

れたる意志は無上菩提に適應せざるものとして之を排除し積極的には我意を聖意に伏し個人目的を超えて如來の終局目的に參與するにあり。

機制我は因果に規定せられ、自然に支配せられ、道德自由得ざるのみならず、我は罪惡の根本肉欲我欲此より生じ、我の幸福の外に欲望なく、個人の外に目的なし。かゝる我意に道德の根據を求むべからず。機制我を超えて其の最深の根底たる眞我を發見し、眞我に我意を、伏し一切の感情意志等を支配せしむ。

眞我は如來の一大眞我の泉源と連絡す。是道程之を無上道心と云ふ。この道德的最高の衝動即ち道德的情操より意志は心靈に轉じ實行の信仰と成る。人が如來の泉源より自己の心靈に湧き出づる聖靈によりて道德の修養に力行し、我意に對し克己し、聖意實現たる菩提心を鞏固にして意志を靈化す。

靈化は如來の恩寵なり。最深の眞我より信念に湧く靈によりて道德練修する時は我意に屬する煩惱を訓練し遂に轉化して菩提と靈化す。知情意を致一せし靈的精神の心

靈れいは如來にょらい恩寵おんちやうの啓示けいじにより、神聖しんせいとしては自律じりつ道德だうとくを命めいじ正義せいぎとしては我意がいうを服ふくし、聖意せい實現じつげんの爲ために天職てんしよくを果はたさんことを欲ほつす。

無限むげんの恩寵おんちやうが人の心情しんじやうには融合ゆうがふ安立あんりふの靈福れいふくを與あたへ、意志いしを靈化れいくわして如來にょらいの目的もくてきに協力けうりやくして聖意せい實現じつげんに行動かうどうせしむ。如來にょらいの恩寵おんちやうたる啓示けいじに解脫げだつし靈化れいくわしたる心しん靈れい即すなはち菩提ぼだい心しんなり。超世俗てうせぞく靈化れいくわの心しん靈れいは志節しせつ高尚かうかうに天人てんじん欽仰きんかうし八部ぶく恭敬きやうぎやうす。仰あふげ慧遠えいぜんの志氣しき高節かうせつ空祖くうその徳容とくやう溫顔おんがん、世よの榮辱えいじよくの爲ために一念ねんも動うごかれず。導師だうしの勸化くわんげ、康公かうこうの清節せいせつ、高たかく人にん天てんに出いで而しかも普よく人間にんげんを度どす。

不斷光 終